
遊戯王5Ds-|現在《いま》の誓い

E.N.D

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王5Ds - 現在^{いま}の誓い

【Nコード】

N9003S

【作者名】

E・N・D

【あらすじ】

端から見たらただ明るい主人公、メビウス。自らの考えを誰にも悟られないようにしている彼との出会いは……いや、彼の出現は未来の歯車を歪に動かした。

メビウスはどのような道を歩むのか？

この小説は別サイトにてポスケの名で投稿した小説の第2章です。

ブローグ

「ライディングデュエル」

それはスピードの中で進化したデュエル。

そのデュエルに命を賭けた者達を人々は5Dsと呼んだ。

だが、時の中を駆ける者達がいた。

その者達の中に彼らと敵対しながら同じ道を歩もうとする者と全てを否定する者がいた。

やがて、否定する者は仲間を、時の中を駆ける者達すらも拒絶した。

これは有り得たかもしれないIfの物語、そして過去から未来へ続くブローグ。

オリカ、有りで原作と違う部分もあります。また、リアルファイトもあるかも・・・

第1話 蠢動

S i d e M ・ Z

あの日から三年の年月が過ぎた

私はずっと待っていた、この歴史に介入する時を

まだ、私自身の石板は来てはない

だが、今のレベルのデュエリストにはこのくらいがちょうどいい

フォーチュンカップといえどそこまで強力なデュエリストは・・・
いたな四人ほど

そう、フォーチュンカップには五人のシグナーの内、四人が参加する

3

精霊達の主、龍可

黒薔薇の魔女、十六夜アキ

”現”キング、ジャック・アトラス

そして、”未来”のキング、不動遊星

彼らに接触するのが今の私の最優先事項

もし、上手くいけたならば

消す

その時は

第1話 蠢動（後書き）

初っぱなからエライことになってしまいました。

第2話祭月

Side I

「とうとう、この日がやって来ました」

ゴドウィン長官が腕を後ろに組みながら外を見る。

私はその隣に立ち、同じように集まった人々に視線を向ける。

「『デュエルオブフォーチュンカップ』。本当に、シグナー達はこの大会に現れるのでしょうか？」

「少なくとも、シグナーの一人である不動遊星はジャック・アトラスとのデュエルの為に『フォーチュンカップ』に参加します。シグナーは同じシグナーに惹かれます、赤き竜の絆によって」

そう言いながら長官は出場者のリストに目を通し、一人一人の名を呼ぶ。

「ボマー、龍可、ジル・ド・ランスボウ、十六夜アキ、死羅、人影、不動遊星そして、メビウス」

「そういえば、彼メビウスもシグナー候補の一人でしたね。一回戦では人影を当てますが、さてどうなることやら・・・イッヒッヒッ」

「彼のことはいくら調べてもデータが全く出てきません。まるで、存在していないかのように・・・」

リストには黒髪に金のメッシュが入った髪の写真とMO

b i u s 《メビウス》の名しか書かれていませんでした。

主人公紹介

名前

メビウス

容姿

黒髪に金のメッシュが入った髪。髪型は真ん中分
けでサイドが跳ねている。目の色は薄い赤でハイライトは無し。服
装は黒い袖無しの白いラインと模様がある服に肩近くまである長い
市松柄のアームウォーマー。灰色の袴みたいなズボンと黒のロング
ブーツ。

性格

突拍子なことが大好きで女子供を大事にしない奴に
は必殺仕事人のように天誅を下す（表面上の性格）

デッキ

炎と水の混合ビートダウン（シンクロ無し、エー
スは氷炎の双竜）と特別なデッキ

Dホイール

TWIOモデル通称ロンギヌス（一輪で車体
の色は赤。翼のような白い外装がついている。イメージはトライデ
ント・ドラギオン）

備考

虫と毛のある動物が苦手。爬虫類は好き。一応、出

身はドイツ

以下、ネタバレがありますので注意して下さい！

本名、ゼライト・メビウス

イリアステルのメンバーで結構な古株。

その正体は初代聖竜王アーリア・メビウス（通称Aのメビウス）から始まった26人のメビウス達の最後の一人。

それまでのメビウス達の記憶を引き継いでいる（死んだ瞬間や裏切

られた記憶が多い）ため、心の中が荒んでいる。

そして、寿命で死ぬことはない。

第3話 出会い

Side H

『フォーチュンカップ』が始まった。

一回戦ではボマー、十六夜アキ、不動遊星の三人が勝ち進みいよいよ俺の出番となった。

「さあ一回戦も大詰めだ！最後にデュエルを行うのはこの二人、アンデット属族を操る人影vs詳細不明のデュエリスト、メビウスだ！！」

俺とは違う入り口から来た奴はにへらと笑いながら歓声に答えている。

「皆さん、どもー俺がメビウスさんだぜ」

いい気なもんだぜ！ゴドウィンが何か目をかけているらしいが俺のアンデット軍団の力でボッコボコにしてやんよ！！

「デュエル！！」

HITOKAGE vs MOBIUS

俺の先行だ！

「ドロー！！ピラミッドタートルを守備表示で召喚！カードを一枚伏せてターンエンドだ」

ピラミッドを背負った亀とカードが一枚俺の場に現れる。

ピラミッドタートル ATK 1200 DEF 1400 アンデット族・効果

このカードが戦闘によって墓地に送られた時、デッキから DEF 2000 以下のアンデット族モンスター一体をフィールド上に特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

「嫌なカードだなあ…俺のターン、ドロー！黄泉ガエルを守備表示で召喚！カードを二枚伏せ、ターンエンド」

天使の輪と白い羽の生えた黄色い蛙が身を縮み込ませながら現れる。

黄泉ガエル ATK 100 DEF 100 水族・効果

自分のスタンバイフェイズ時にこのカードが墓地に存在し、自分フィールド上に魔法・罠カードが存在しない場合、このカードを自分フィールド上に特殊召喚することができる。この効果は自分フィールド上に「黄泉ガエル」が表側表示で存在する場合は発動できない。

あ、あいつ俺よりも凶悪なモンスター出しやがった！

…だが、このターンで勝負を決めてやるぜ！

「俺のターン、ドロー！！行くぜ、チューナーモンスターゾンビキヤリアを召喚！」

ゾンビキヤリア ATK 400 DEF 200 アンデット族・チューナー

手札を一枚デッキの一番上に戻して発動する。墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。この効果で特殊召喚されたこのカードは、フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

「よっしゃ！レベル4のピラミッドタートルにレベル2のゾンビキヤリアをチューニング！死せる皇帝、その身を強き形に具象せん！！」

4 + 2 = 6

「シンクロ召喚！再臨せよ、デスカイザー・ドラゴン！！さらに、罨カード発動！バスター・モード。このカードにより、現れよデスカイザー・ドラゴン/バスター！！」

腐った体に鬼のような顔があるドラゴンが現れる。俺の切り札だ。

デスカイザー・ドラゴン/バスター ATK 2900 DEF 200
0 アンデット族・効果

このカードは通常召喚できない。「バスター・モード」の効果でのみ特殊召喚することができる。このカードが特殊召喚に成功した時、自分または相手の墓地に存在するアンデット族モンスターを任意の数だけ自分フィールド上に特殊召喚する。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化され、このターンのエンドフェイズ時に破壊される。また、フィールド上に存在するこのカードが破壊された時、自分の墓地に存在す

トル

MOBIUS手札五枚
フィールド無し

「メビウス、大ピンチだ！この状況をどう打開する！！？」

「俺のターン、ドロー！！この瞬間、墓地の黄泉ガエルの効果発動だ！来い、黄泉ガエル！さらに、速攻魔法発動！地獄の暴走召喚！相手フィールド上に表側表示でモンスターが存在し、自分フィールド上にATK 1500以下のモンスター一体が特殊召喚に成功した時に発動できる。特殊召喚したモンスターと同名のモンスターを自分の手札、墓地、デッキから全て、攻撃表示で特殊召喚する。あんたも自分のモンスターを選んで特殊召喚しな？」

俺の場のカードは二枚目はデッキに入っていない…

「おや？無いみたいだな、それじゃ、デッキから黄泉ガエルを二体特殊召喚する！そして、手札から魔法カード二枚発動！二重召喚！このカードの効果で俺は通常召喚を三回行う。そして、もう一枚魔法カード発動！天よりの宝札。互いに手札が六枚になるようにドロ―する。俺は四枚ドロ―！！…よっしゃ、ガエル達をリリースして氷帝メビウス、炎帝テストロス、フロストザウルス！！！」

氷帝メビウスATK 2400 DEF1000水族・効果

このカードがアドバンス召喚に成功した時、フィールド

上に存在する魔法・罠カードを二枚まで選択して破

壊することができる。

炎帝テストロスATK2400 DEF1000炎族・効果

「ということでフロストザウルスのATK 1000UP」

フロストザウルスATK 2600↓ATK3600

「じゃ、ダイレクトアタック」

氷を纏ったブラキオレイドスが俺に向かって突進して来るのがスロ
ーモーションに見えるぜ…

HITOKAGE LP 0

「決まった!!!一回戦最終試合を勝ち抜いたのはメビウスだああ!
!!!」

「フッフッフ。俺、最きよおおおう!!!!!!」

第3話 出会い（後書き）

おお、イツァワンキル…
対戦相手の人影さんは多分、出番はもうないと思います。

第4話

出会いanother(前書き)

く、口調が・・・()()()。;()()()

第4話 出会いanother

Side H・Y

「フッフッフ。俺、最きよおおおう!!!!」

歓声の中奴は左腕を高く突き上げながら宣言していた。

最初、俺はメビウスのことをふざけた奴だと思っていたが、それはデュエルの内容を見て間違いだと気付くかされた。

相手が切り札を出してきても自分のペースを保つ。一見、簡単そうなことだがそれをするには度胸とカードを信じる心が必要だ。

「俺がメビウスと当たるのは決勝戦か…」

しかし、その前にボマーとのライディングデュエルで勝たなくてはならない。

「お前を使うことになるかもしれないな、スターダスト」

エクストラデッキからスターダスト・ドラゴンのカードを取りだし、語りかける。

その時、

ポウ

「!!!!?これは…」

右腕の赤い痣が鈍く輝き、何かが俺に言葉を伝えようとする。

『彼ヲ助ケテ…星屑ノ人…………私ノ…………』

か細いその声がどんどん小さくなっていく。

「待つんだ！」

『…私ハ何時モ…………他人任セダ……………』

「お前は、何者だ!!」

俺の叫びにそいつは最後に小さいながらもはっきりとした声で答える。

『ファフニール』

そして、腕の赤い痣の輝きが失せた。

あれが何なのかは知らないが今は試合に集中するだけだ。

第5話

燃える薔薇

前編（前書き）

今回、アキさんのデッキが魔改造されました。（因みに、デッキは”黒薔薇のグラデュエーション”を元にしました）

後、今回から自分の最近の出来事を書いてみようと思います。

では早速、今日、TGの読み形がTG（テックジーニアス）ではなく、TG（テックジーナス）ということに気がつきました。

第5話

燃える薔薇

前編

Side I・A

二回戦、私は懷に”黒薔薇の魔女”としてデュエルをする時に着ける仮面を忍ばせ、デュエルフィールドに上がった。

「一回戦、圧倒的な力の差を見せつけた二人のデュエリスト。その二人が今、死力を尽くしてぶつかる!!! ブラック・ローズ・ドラゴンと共に相手に恐怖を刻み付ける”黒薔薇の魔女”こと十六夜アキ!!! 対するは水属性と炎属性モンスターを操る強者《つわもの》デュエリストメビウス!!!」

観客は私が現れると口々に口汚く罵り、メビウスに歓声を送る。

「うつわあゝ…こんな美人さんに怒鳴るなんて、あいつら絶対にしめちゃう!」

眉間に皺を寄せ、如何にも怒ってますという雰囲気を出し視線を観客席に向けてコイツはデュエルディスクを構える。

どうせコイツも頭の中では私に対してあの観客達とさほど変わらないことを思っている。

だから私は…………

「デュエル!!!」

AKI VS MOBIUS

私自身を大切にしてくれるディヴァインの為に勝つ！！

「俺の先行だ！ドロー！！……（ヤバい、事故った！？）魔法カード、”手札断殺”を発動！互いのプレイヤーは手札二枚を墓地に送り、デッキからカードを二枚ドローする。”UFOTARTOL”を守備表示で召喚し、カードを二枚伏せてターンエンド」

UFOTARTOL ATK1400 DEF1200 機械族効果

このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、

自分のデッキからATK1500以下の炎属性モンスター

１体を自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊

召喚することができる。

「私のターン、ドロー！」イービル・ソーン”を攻撃表示で召喚。そして、モンスター効果発動！このモンスターをリリースして相手プレイヤーに300ポイントのダメージを与え、同名のモンスターをデッキから可能な限り特殊召喚することができる。私は二体の”イービル・ソーン”を攻撃表示で特殊召喚する！さらに、魔法カード、”超栄養太陽”を発動！自分フィールド上に存在するLv2以下の植物族モンスター１体をリリースしてそのモンスターのLv+3以下の植物族モンスター１体を手札又はデッキから特殊召喚する。私はデッキからLv3の”ローンファイア・ブロッサム”を攻撃表示で特殊召喚！効果発動！！自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター１体をリリースして自分のデッキから植物族モンスター１体を特殊召喚する！！”イービル・ソーン”をリリースし現れよ、”ギガ・プラント”！最後に装備魔法、”スーペルブイス”を発動する。このカードはデュアルモンスターにしか装備できないが装備されたモンスターは再度召喚した状態となる！”ギガ・プラント”の効果発動！自分の手札又は墓地は存在する昆虫族

又は植物族モンスター一体を特殊召喚する。墓地から”ボタニカル・ライオ”を特殊召喚!”

「……………おい、俺にオーバーキルでも決めるのかー(・ー・;)」

イービル・ソーン ATK100 DEF300 植物族効果

このカードをリリースして発動する。相手LPに300ポイントのダメージを与え、自分のデッキから”イービル・ソーン”を二体まで表側攻撃表示で特殊召喚することができる。この効果で特殊召喚した”イービル・ソーン”は効果を発動することができない。

ロインファイア・ブロッサム ATK500 DEF1400 植物族効果

自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター一体をリリースして発動する。自分のデッキから植物族モンスター一体を特殊召喚する。この効果は一ターンに一度しか使用できない。

ギガ・プラント ATK2400 DEF1200 植物族効果

このカードは墓地又はフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱いとして再度召喚することで、このカードは効果モンス

ター扱いとなり以下の効果を得る。

● 自分の手札又は墓地に存在する昆虫族又は植物族モンスター一体を特殊召喚する。この効果はターンに一度しか使用できない。

” ボタニカル・ライオ” ATK1600 DEF2000 植物族効果

自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター一体につき、このカードのATK300ポイントUPする。このカードはフィールド上に表側表示で存在する限り、コントロールを変更することはできない。

ボタニカル・ライオ ATK 1600 ↓ ATK2500

「バトル！！行きなさい、”ギガ・プラント”、”ローンファイア・ブロッサム”、”ボタニカル・ライオ”！」

UFOタートル DEF1200 vs ギガ・プラント ATK2400

「UFOタートルが戦闘によって破壊されたので効果発動！来い、仮面竜《マスクド・ドラゴン》！そして、罠カード発動！”攻撃の無力化”！！効果により、相手モンスター一体の攻撃を無効にしてバトルフェイズを終了させる」

仮面竜 ATK1400 DEF1100

このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、自分のデッキからATK1500以下のドラゴン族モンスター一体を自分フィールド上に特殊召喚することができる。

私のモンスター達の攻撃が異次元に呑み込まれる。

少し焦ったかもしれないけどまだ大丈夫。

この状況を簡単に覆すのはいくらあいつでも無理よ。

「カードを二枚伏せてターンエンド」

「の時にもう一枚罫カード発動、”リビングデットの呼び声”。効果は……知ってるよな」

にやーと悪役がするような笑みを浮かべてあいつは私に聞く。

その言葉に対して無言で答えた私にさらに笑みを深くさせ、あいつは墓地からUFOタートルを復活させた。

AKI LP 4000

手札二枚

フィールド、”ギガ・プラント”、”ローンファイア・ブロッサム

”、”ボタニカル・ライオ”

セットカード二枚

MOBIUS LP 3700

手札三枚

フィールド、”UFOタートル”、”仮面竜”

”リビングデットの呼び声”

「俺のターン、ドロー！！UFOタートルをリリースして氷帝メビウスをアドバンス召喚！効果によりお嬢さんのセットカード二枚を破壊！「チェインして」和睦の使者」を発動。このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける戦闘ダメージを0にして戦闘耐性を付ける」……（なんか運がないな……）魔法カード、”霜双棘”《そうそうきよく》を使わせてもらう。手札の水属性モンスター一体とフィールド上の水属性モンスター一体をリリースして相手フィールド上のモンスター一体を破壊し、自分の墓地からモンスター一体を特殊召喚する！」ギガ・プラント”を破壊し、炎帝テスタロスを特殊召喚！！」

巨大な氷柱に”ギガ・プラント”が貫かれ、中から全身が鎧に包まれ、両手から火が吹き出している人型のモンスターが現れる。多分、”手札断殺”の効果で墓地に送られたのだと思う。

そして、”ボタニカル・ライオ”のATKが下がる。

”ボタニカル・ライオ” ATK2500 ↓ ATK2200

「”仮面竜”を守備表示にしてターンエンド」

ギガ・プラントを破壊されたのは痛いけど、このデュエルはもらった！

「私のターン、ドロー！！魔法カード、”品種改良”を発動するわ！このカードが発動された時、このターンの間私の場の植物族モンスター一体をチューナーとして扱う。私は”ボタニカル・ライオ”をチューナーとして扱う！Lv3”ローンファイア・ブロッサム”にLv4”ボタニカル・ライオ”をチューニング。」

花の蕾が三つの星になり、赤い薔薇をたてがみにした金色のライオ

ンが四つの輪となる。

「冷たい炎が世界の全てを包み込む。漆黒の花よ開け、シンクロ召喚！！」

3 + 4 = 7

「咲き乱れよ、”ブラック・ローズ・ドラゴン”！！！」

第6話

燃える薔薇 後編（前書き）

メビウスにとって初めての心理フェイズ、発動！！そして、切り札も登場！？

フィールドのおさらい

アキさん

ブラック・ローズ・ドラゴン（攻撃表示）

メビウス

仮面竜（守備表示）炎帝テストロス（攻撃表示）リビングデットの呼び声（ただの場所取り）

今日の一言

ガジェット禁止になりますように（血の代償でも可）

第6話

燃える薔薇 後編

Side J・A

『キュラララララ！！！！！』

赤い薔薇のような胴体と翼に黒い頭部を持つ竜、”ブラック・ローズ・ドラゴン”。

その姿からは俺の”レッド・デーモンズ・ドラゴン”に勝るとも劣らぬ威圧感を感じる。

ブラック・ローズ・ドラゴン ATK 2400 DEF 1800 ドラゴン族シンクロ

チューナー+チューナー以外のモンスター一体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、フィールド

上に存在するカードを全て破壊することができる。一ター

ンに一度、自分の墓地に存在する植物族モンスター一体

をゲームから除外することで、相手フィールド上に存在す

る守備表示モンスター一体を攻撃表示にし、このターン

のエンドフェイズ時まで ATK を 0 にする。

「”ブラック・ローズ・ドラゴン”の効果発動！自分の墓地に存在する植物族モンスター一体をゲームから除外して相手フィールド上の守備表示モンスター一体を攻撃表示にしてこのターンのエンドフェイズ時まで ATK を 0 にする！！私は”ローンファイア・ブロッサム”を除外して”仮面竜”を選択する！！」

仮面竜 ATK 1400 ↓ ATK 0

「そして、バトル！行け《ゆけ》、”ブラック・ローズ・ドラゴン”！ブラック・ローズ・フレア！……！」

仮面竜 ATK 0 vs ブラック・ローズ・ドラゴン ATK 2400

「ぐおっ！？まっマジで痛い……だと……？」

MOBIUS LP 3700 ↓ LP 1300

「”仮面竜”の効果により、”仮面竜”を再び召喚する。……どうして、俺は痛みを感じるんだ？」

「フフフ、このデュエルは私の力によってダメージが実際の痛みとなる『サイコデュエル』となっている。カードを一枚伏せてターンエンド。さあ、貴方のターンよ」

まさに、魔女と言つべき笑みを浮かべてターンエンドを宣言する、十六夜アキ。

対してメビウスは………笑っている！？

AKILP 4000

手札一枚

フィールド、ブラック・ローズ・ドラゴン、リバーカード一枚

MOBIUSLP 1300

手札一枚

フィールド、炎帝テストロス、仮面竜、リビングデットの呼び声（意味なし）

「ククク、良いねえ、この状況！やつとやる気が出てきたぜ！！」

「貴方、この状況が分かっているの？たとえ守備表示でモンスターを出して、時間稼ぎをしても私の”ブラック・ローズ・ドラゴン”の効果によって無駄になるわ。そして、さっきと同じいいえ、それ以上の痛みを感じる。それでもそんなことが言える「ガタガタ五月蠅いんだよ」！？」

「なんだいなんだい、さっきから黙って聞いてれば。人の言うことに一々突っ込まなくてよろしい！あとさあ、さっきから気になってんだけど……………俺を見ろよ」

Side J・A↓ Side?

真っ直ぐに十六夜アキの目を見ながらメビウスは呟くように続ける。
その目には暗い光が宿っている。

「お前の相手は俺だ。俺に全神経を傾ける。それともなにか？『俺なんか眼中に無し。そこら辺の雑魚A』とでも思ってるのか？……ああそうか。お前は自分には”特別”な力があるから他の人間なんてどうでもいいと思ってるんだ。そうかいそうかい、なら納得だ。だっってお前は

魔女なんだから

└

「貴方に…………貴方に私の何が分かるのよ！！親に捨てられ、周りの

人間は私に枷をかけようとしたり……私を私として見てくれるのはディヴァインだけ。私はディヴァインの望む世界の為に貴方に勝つ……!!」

「クヒヤヒヤヒヤ!! そうだ、それでいいんだよ! 俺のターーン!! ドロー!!」

狂ったような笑い声を上げ、彼はこのデュエルを終わりに向ける為に加速させる。

「魔法カード発動!」天よりの宝札”互いのプレイヤーは手札が六枚になるようにドロウする。そして、墓地の”氷帝メビウス”と”黄泉ガエル”、”UFOタートル”を除外して”氷炎の双竜”《フロストアンドフレイム・ツィンドラゴン》を特殊召喚!!」

氷炎の双竜 ATK 2300 DEF 2000 ドラゴン族効果

このカードは通常召喚できない。自分の墓地の水属性モンスター二体と炎属性モンスター一体をゲームから除外することでのみ特殊召喚することができる。手札を一枚捨てることでフィールド上のモンスター一体を破壊する。この効果は一ターンに一度しか使用できない。

「そして、効果発動! 手札を一枚捨てて、”ブラック・ローズ・ドラゴン”を破壊! そして、カードを一枚伏せて、装備魔法、”幻惑の巻物”を”仮面竜”に装備! このカードの効果により”仮面竜”の属性を炎から水に変える!」

「属性を変える意味なんて有るのかしら?」

「ククク、まあ見てな。水属性となった”仮面竜”と”氷炎の双竜”、炎属性の”炎帝テストロス”をリリースし、現れよ！！”氷炎魔帝ブリイム”！！！！」

それぞれのモンスターが二つの水柱と一つの火柱となり、火柱が水柱に呑み込まれる。

そして、その中から右腕は氷に、左腕は炎に包まれ、禍々しい鎧と長さの違う双剣を構えた男が現れる。

氷炎魔帝ブリイム ATK 3000 DEF 2800 戦士族効果

このカードは特殊召喚することができない。このカード

をアドバンス召喚する為には水属性モンスター一体以上と炎属性モンスター一体以上を含む三体のモンスターをリリース

しなければならない。このカードのアドバンス召喚に成功した時、リリースしたモンスターの中で水属性モンスター

ー又は炎属性モンスターのどちらが多いかにより効果を発動する。

- 水属性

このカードがアドバンス召喚に成功した時、フィールド上の魔法・罫カードを全て破壊し、その中の罫カード一枚に付き、500ポイントのダメージを与える。

- 炎属性

このカードがアドバンス召喚に成功した時、相手の手札を全て墓地に送る。

「”ブリイム”の効果発動！フィールド上の魔法・罫カードを全て破壊し、その中の罫カード一枚に付き500のダメージを与える！メルト・ダウン！！」

”ブレイム”が左腕を振るうとフィールド上の魔法・罠カードが全て溶ける。

そして、右腕から氷柱を生み出し、アキに向かって飛ばす。

A K I L P 4 0 0 0 ↓ L P 2 5 0 0

「さあ、最後だぜ。”ブレイム”でダイレクトアタック！！凍焰！！！！」

両手に握った双剣を構えた”ブレイム”がアキに高速で近づき、切り払う。

A K I L P 2 5 0 0 ↓ L P 0

「そんな……私が………負けた？」

「前を見ないお嬢さんにゃー負けないぜ、俺♪」

不敵な笑みを浮かべてメビウスはデュエルフィールドから降りる。

「ましてや、何も知らない狂信者には………な」

最後の言葉は誰にも聞こえないほど小さかったが、その視線は観客席に繋がる通路に立つ男に向けられていた。

第6話

燃える薔薇 後編（後書き）

通路に立っていた男とはみんな大好きな”あの”おじさんです。
次回、初っぱな”は”メビウスのターン！！

第7話 凍てつく恒星 前編（前書き）

オリジ設定炸裂！！

今日の一言

今度、リゾネデッキでも作ろうかと思っています。

奴のDーホイールはまるで、炎のように紅く、両サイドにある白い翼は雄々しい。

その姿は全てのDーホイラーにとって、伝説であり目標とされた人のDーホイールと瓜二つだった。

「おおつとー!!?あれはDーホイールとライディングデュエルの創設者であり、初代、キング、フィル・スパイルの愛用したTWI 0モデル、通称”ロンギヌス”だああ!!!しかし、何故それをメビウスが持っているんだ!?!」

MCのアナウンスに奴はニヤリと笑いながら俺に話し掛ける。

「なあ、あんたはどうして俺が”コイツ”を持っているのか気になるねえか?」

「……………興味は無いな」

「おークールだねえー…………俺に勝ったら教えてやんよ」

正直、興味は本当に無かったがまあ良いか。

「「ライディングデュエル、アクセラレーション!」」

Y U - S E I V S M O B I U S

「俺の先行、ドロー!」

Y U - S E I S q 0 ↓ 1

M O B I U S S q 0 ↓ 1

「黄泉ガエル」を守備表示で召喚し、カードを一枚伏せてターンエンドだ！」

一回戦で奴が見せた連続アドバンス召喚のキーマンスター”黄泉ガエル”。
その効果は脅威だ。

「俺のターン、ドロー!!」

Y U - S E I S q 1 ↓ 2

M O B I U S S q 1 ↓ 2

「この瞬間、罨カード発動！」威嚇する咆哮”！コイツの効果によりあんたはこのターン、バトルフェイズを行えないぜ」

「そうきたか……俺は”ボルト・ヘッジホッグ”を守備表示で召喚!!カードを二枚伏せてターンエンド」

ボルト・ヘッジホッグ A T K 8 0 0 D E F 8 0 0 機械族・効果

自分フィールド上にチューナーが表側表示で存在する場合、このカードを墓地から特殊召喚することができる。
この効果で特殊召喚したこのカードはフィールド上から離れた場合、ゲームから除外される。

Y U - S E I L P 4 0 0 0

手札三枚

フィールド、”ボルト・ヘッジホッグ”、セットカード二枚

M O B I U S L P 4 0 0 0

手札四枚

フィールド、”黄泉ガエル”

「ほーん……やっぱ、シンクロ狙いか。……俺のターン、ドロー！」

Y U - S E I S q 2 ↓ 3

M O B I U S S q 2 ↓ 3

「”黄泉ガエル”をリリースして、”ヘルカイザー・ドラゴン”をアドバンス召喚！さらに、”S p エンジェル・バトン”を発動！！S q が 2 以上ある時に発動でき、カードを二枚ドローしてから一枚捨てる。さあーで、バトルだ！行け、”ヘルカイザー・ドラゴン”！”ボルト・ヘッジホッグ”に攻撃「畏発動！」屑鉄のかかし！攻撃を無効にして、再びセットする」………地味に効くな………
…手札を全て伏せてターンエンド」

ヘルカイザー・ドラゴン A T K 2 4 0 0 D E F 1 5 0 0 ドラゴン
族デュアル

このカードは墓地又はフィールド上に表側表示で存在する場合、通常モンスターとして扱う。フィールド上に表側表示で存在するこのカードを通常召喚扱

いとして再度召喚することで、このカードは効果モンスター扱いとなり以下の効果を得る。

●このカードは一度のバトルフェイズ中に二回攻撃することができる。

「俺のターン、ドロー!!」

Y U - S E I S q 3 ↓ 4

M O B I U S S q 3 ↓ 4

「俺は、手札を一枚捨てることによりチューナーモンスター”クイツク・シンクロン”を特殊召喚する!!さらに、”チューニング・サポーター”を通常召喚!Lv 1”チューニング・サポーター”とLv 2”ボルト・ヘッジホッグ”にLv 5”クイツク・シンクロン”をチューニング!!!」

1 + 2 + 5 = 8

「集いし絆が、新たな地平へいざなう、光指す道となれ!!シンクロ召喚!駆け抜ける、”ロード・ウォリアー”!!!」

クイツク・シンクロン A T K 7 0 0 D E F 1 4 0 0 機械族チューナー

このカードは手札のモンスター一体を墓地へ送り、手札から特殊召喚することができる。このカードは「シンクロン」と名のついたチューナーの代わりにシンクロ素材とすることができる。このカードをシンクロ素材とする場合、「シンクロン」と名のついたチューナーをシンクロ素材と

するモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

チューニング・サポーター ATK 100 DEF 300 機械族効果

このカードをシンクロ召喚に使用する場合、このカードはLv2モンスターとして扱うことができる。このカードがシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地に送られた場合、自分のデッキからカードを一枚ドローする。

ロード・ウォーリアー ATK 300 DEF 1500

「ロード・シンクロン」+チューナー以外のモンスター二体以上一ターンに一度、自分のデッキからLv2以下の戦士族又は機械族モンスター一体を特殊召喚することができる。

「そして、俺は”ロード・ウォーリアー”の効果により、デッキから”スピード・ウォーリアー”を特殊召喚する！バトルだ！！」

スピード・ウォーリアー ATK 900 DEF 400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動することができる。このカードの元々のATKはバトルフェイズ終了時まで倍になる。

「あれ……………デジャヴかな？…さっき、こんな事態に陥ったよう
な……………（^ー^；）」

第7話 凍てつく恒星 前編（後書き）

……あれ？メビウスのターンは何処に行ったんだろう？

第8話 凍てつく恒星 中編

Side ?

白い鎧を纏った戦士とそれよりは小ぶりの鎧を纏った戦士がメビウスに向かって飛び掛かる。

「だぁーくそっ！罨発動！」万能地雷グレイモヤ”×2！！効果で”ロード・ウォーリアー”と”スピード・ウォーリアー”を破壊する！ついでにチェーンして、”砂塵の大竜巻”発動！”屑鉄のかかし”を吹き飛ばしてやる！！！！」

突如、爆発が起こり二体の戦士を呑み込んで消え失せ、竜巻が伏せカードを消し去る。

若干の焦りを顔に宿しながら、遊星は手札から一枚をデュエルデスクに差し込む。

「……カードを一枚伏せてターンエンドだ」

「さらに、そいつにチェーンして、リバーカードオープン！！”おジャマトリオ”、”スキル・サクセサー”！！これらのカードの効果でお前のフィールドにおジャマトークンを三体特殊召喚し、”ヘルカイザー・ドラゴン”のATKをエンドフェイズまで400ポイントUpする！！」

ヘルカイザー・ドラゴンATK 2400 ↓ ATK 2800 ↓ ATK 2400

Y U - S E I L P 4 0 0 0

手札一枚

フィールド、おジャマトークン×3、リバーズカード一枚

M O B I U S L P 4 0 0 0

手札零枚

フィールド、ヘルカイザー・ドラゴン

「俺のターン、ドロー！」

Y U - S E I S q 4 ↓ 5

M O B I U S S q 4 ↓ 5

「効果により、”黄泉ガエル”が甦る。そして、”ヘルカイザー・ドラゴン”と”黄泉ガエル”をリリースし、”青氷の白夜龍《ブルーアイス・ホワイトナイト・ドラゴン》”をアドバンス召喚！」

現れるのは全身が水色の氷となっている龍。

青氷の白夜龍 A T K 3 0 0 0 D E F 2 5 0 0 ドラゴン族効果

このカードを対象にする魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。自分フィールド上に表側表示で存在するモンスターが攻撃対象に選択された時、自分フィールド上に存在する魔法又は罠カード一枚を墓地へ送ること。このカードに攻撃対象を変更することができる。

「そして、バトルだ！！”青氷の白夜龍”でおジャマトークンを攻

撃！

言っとくけど、こいつを対象にとる魔法・罠カードは効果を無効にして破壊するぜ！」

”青氷の白夜龍”が吐いた氷混じりの白いプレスはおジャマトークン（黒い奴）を凍らせて砕く。

「おジャマトークンは破壊されたら300ポイントのダメージをコントローラーに与える」

「くっ」

Y U - S E I L P 4 0 0 0 ↓ L P 3 7 0 0

「ターンエンド！」

「俺のターンだ、ドロー！！」

Y U - S E I S q 5 ↓ 6

M O B I U S S q 5 ↓ 6

「”シールド・ウイング”を守備表示で召喚し、ターンエンドだ……」

シールド・ウイング A T K 0 D E F 9 0 0 鳥獣族効果
このカードはターンに二度まで破壊されない。

Y U - S E I L P 3 7 0 0

手札一枚

フィールド、おジャマトークン×2、シールド・ウイング、リバー
スカード一枚

MOBIUS LP4000

手札零枚

フィールド、青氷の白夜龍

「俺のターン、ドロー！」

YU-SEI Sq 6↓7

MOBIUS Sq 6↓7

「黄泉ガエル」をまた、召喚してSpシフト・ダウン発動！自分のSqを6個取り除き、デッキからカードを二枚ドロー！……行くぜ！！自分フィールド上のモンスター全てを墓地に送ることにより、魔法カード”クルエル・サクリファイス”発動！こいつの効果で墓地に送ったモンスターの数だけフィールド上のカードを破壊する。俺は、”シールド・ウイング”と”屑鉄のかかし”を破壊する！そして、墓地の水属性のモンスター”黄泉ガエル”、”青氷の白夜龍”と炎属性のモンスター”ヘルカイザー・ドラゴン”を除外して、”氷炎の双竜”を特殊召喚する！！そして、バトルだ！”氷炎の双竜”でおジャマトークン（緑）を攻撃！」

氷と炎、二つの首からそれぞれのプレスが吐き出されておジャマトークンを倒す。

「つつー！」

Y U - S E I L P 3 7 0 0 ↓ L P 3 4 0 0

「そして、ターンエンドだ。……オイオイ、この調子でいくといくらお前でもヤバくねえか？ん？」

「俺はまだ諦めない！最後までカードを、”仲間”を信じる！！！」

「へえ〜信じるねえ〜まつここからの巻き返し、期待させてもらうなっ」

第8話 凍てつく恒星 中編（後書き）

メビウス「突然だが、この場所を借りて、今日活躍したカードの紹介をするぜ！……と言うわけで、今日の頑張ったで賞なカードはこいつだ！！」

青氷の白夜龍 L V 8、水属性、A T K 3 0 0 0 D E F 2 5 0
0ドラゴン族効果

このカードを対象にする魔法・罫カードの発動を無効にし破壊する。自分フィールド上に存在するモンスターが攻撃対象に選択された時、自分フィールド上に存在する魔法又は罫カード一枚を墓地へ送ることで、このカードを対象を変更することができる。

メビウス「墓地からの特殊召喚に対応していて、A T Kもそれなりにあり、”次元幽閉”などが効かねえのが便利だ。……まあ、”聖なるバリアミラーフォース”とかが来たらアウトだがな」

第9話

凍てつく恒星

後編（前書き）

このデュエルのラストは実際に私が体験したことにオリカを+した結果です。

フィールドのおさらい

遊星さん

手札一枚、おジャマトークン（黄）

メビウス

手札零枚 ” 氷炎の双竜 ”

今日の一言

台風の季節になりましたね〜

第9話

凍てつく恒星

後編

S i d e H・Y

LPの差はすぐに巻き返せる。

だが、俺の場はがら空気で手札のこのカードも今はまだ使うことができない。

「……俺のターン、ドロー!」

Y U - S E I S q 7 ↓ 8

M O B I U S S q 1 ↓ 2

「これならば……俺は”S p - エンジェルボタン”を発動!デッキがからカードを二枚ドローし、手札を一枚墓地に捨てる。カードを二枚伏せてターンエンドだ」

Y U - S E I L P 3 4 0 0

手札一枚

フィールド、おジャマトークン(黄)、リバーズカード二枚

M O B I U S L P 4 0 0 0

手札零枚

フィールド、”氷炎の双竜”

「打つ手無しか?俺のターン、ドロー!」

Y U - S E I S q 8 ↓ 9

MOBIUS Sq 2↓3

「ライノタロス”を攻撃表示で召喚！」

ライノタロス ATK 1800 DEF 600 獣戦士族効果

一度のバトルフェイズ中に、自分フィールド上に存在

するモンスターの戦闘によって相手モンスターを二体以

上破壊した場合、このカードはそのバトルフェイズ中に

二回攻撃することができる。

「そして、バトルだ！！”氷炎の双竜”、”ライノタロス”で攻撃だ！」

おジャマトークン（黄）は呆気なく氷と炎に呑み込まれたがこれ以上は攻撃を受けるつもりはない！

YU - SEI LP 3400↓3100

「畏発動！」ガード・ブロック”！このカードは一度だけ戦闘ダメージを無効にし、デッキからカードを一枚ドロウすることができる」

黒いサイの突進が止まり、俺はデッキからカードを一枚引く。

「おーギリギリ、セーフってか？」

D - ホイールを俺と同じ速度に保たせながらメビウスが俺に話しかける。

「…………ラストチャンスだ。こいつを逃したら、お前は俺にゃー勝てねえぞ？」

「俺は…………勝つさ。信じなければモノに出来ないカードがある。俺の…………タアアアアン！！！！！」

『BGM遊星バトル（牛尾さんの処刑用BGM）スタート！』

Y U - S E I S q 9 ↓ 1 0

M O B I U S S q 2 ↓ 3

引いたカードに描かれていたのは俺の仲間たちを繋ぐ竜の幼き姿。その瞬間、俺にはある1つのルートが導きだされた。

「…………来たか。俺はチューナーモンスター」デブリ・ドラゴン」を攻撃表示で召喚！そして、このカードの召喚に成功した時、A T K 500以下のモンスター一体を特殊召喚する！俺は”チューニング・サポーター”を特殊召喚する。さらに、自分の墓地からモンスター一体が特殊召喚された時、”ドッペル・ウォリアー”を特殊召喚する！！まだだ、”S p - ウォリアーズ・ストライク”発動！このカードは自分の墓地に存在するウォリアーと名のつくモンスターのL v の合計が自分のS q以下の時にそのモンスターを可能な限り特殊召喚する！ 来い、”ロード・ウォリアー”、”スピード・ウォリアー”！！行くぞ、L v 2扱いの”チューニング・サポーター”とL v 2”ドッペル・ウォリアー”にL v 4”デブリ・ドラゴン”をチューニング！！」

デブリ・ドラゴン ATK 1000 DEF 2000 ドラゴン族チューナー

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する ATK 500 以下のモンスター1体を攻撃表示で特殊召喚することができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。このカードをシンクロ素材とする場合、ドラゴン族モンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。また、他のシンクロ素材モンスターは Lv 4 以外のモンスターでなければならない。

ドッペル・ウォーリアー ATK 800 DEF 800 戦士族効果

自分の墓地に存在するモンスターが特殊召喚に成功した時、このカード

を手札から特殊召喚することができる。このカードがシンクロ召喚の素材として墓地に送られた場合、自分フィールド上にドッペル・トゥーン（戦士族闇属性 Lv 1 ATK 400 DEF 400）2体を攻撃表示で特殊召喚することができる。

「集いし絆が新たに輝く星となる、光指す道となれ！」

2 + 2 + 4 = 8

「シンクロ召喚！飛翔せよ、”スターダスト・ドラゴン”！！！」

スターダスト・ドラゴン ATK 2500 DEF 2000
ドラゴン族シンクロ

チューナー＋チューナー以外のモンスター一体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ魔法・罠・効果モンスターの効果が

発動した時、このカードをリリースすることでその効果を無効にし破壊する。この効

果を適用したターンのエンドフェイズ時、この効果を発動するためリリースさ

れ墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚することができる。

『キュオオオオオオ！！！！』

咆哮と共に現れるのは一度、奪われた俺のデッキのエース”スターダスト・ドラゴン”。

その姿を見たメビウスが少し驚いたような声で呟く。

「それがお前の切り札か……」

「ああ。そうだ。”ドッペル・ウォーリアー”がシンクロ素材となった時、ドッペル・トークンを二体特殊召喚する。そして、このデュエルを終わらせる！リバースカードオープン！！”イージーチューニング”！自分の墓地に存在するチューナー一体をゲームから除

外してフィールド上に表側表示で存在するモンスター一体のATKをその除外したチューナーのATK分Upする！！俺は”デブリ・ドラゴン”を除外して”スターダスト・ドラゴン”のATKをUp！！！！”

Y U - S E I L P 3 1 0 0 ↓ 1 1 0 0

スターダスト・ドラゴンATK 2 5 0 0 ↓ ATK 3 5 0 0

「あーっとこれは…………… 負けたな」

「バトル！」ロード・ウォリアー”で”ライノタロス”を、”スターダスト・ドラゴン”で”氷炎の双竜”を攻撃！響け、シューティング・ソニック！！！！”

ロード・ウォリアーATK 3 0 0 0 vs ライノタロスATK 1 8 0 0

スターダスト・ドラゴンATK 3 5 0 0 氷炎の双竜 ATK 2 3 0 0

M O B I U S L P 4 0 0 0 ↓ L P 1 6 0 0

「ドッペル・トークン二体と”スピード・ウォリアー”でダイレクトアタック！！ソニック・エッジ！！！！”

M O B I U S L P 1 6 0 0 ↓ L P 0

「……うーん負けた。負けたったら負けた（「ー」）」

「良いデュエルだったな」

D・ホイールから互いに降り、俺たちは握手をする。

「まあな。けど、次は負けないぜい♪」

第9話

凍てつく恒星

後編（後書き）

メビウス「はいはい、メビウスさんによるー今日のー一押しカードの時間だぞー……今日のー一押しはこいつだ!!」

デブリ・ドラゴン風属性Lv 4 ATK 1000 DEF 2000
ドラゴン族チューナー

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するATK500以下のモンスター一体を攻撃表示で特殊召喚することができる。この効果で特殊召喚した効果

モンスターの効果は無効化される。このカードをシンクロ素材とする場合、ドラゴン族モンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。また、他のシンクロ素材モンスターはLv4以外のモンスターでなければならない。

メビウス「準制限だが、この効果はシンクロメインの奴にはかなりいいカードだ。……因みに、作者はこいつをデッキに入れていたらしいが、ATK 500以下のモンスターがデッキにいなかったそうだ」

第10話

苦難の中間管理職（前書き）

今回、リアルファイトがあります（メビウス無双）

今日の一言

た、大会に遅刻してもうた……だと……！！？

第10話

苦難の中間管理職

Side Z・M

さて、私は遊星に負けた後、会場の関係者の待機場所から奥に向かって通路を進んでいる。

目的はセキュリティのデータベースにハッキングを行うことと、アイツらが来た時の布石だ。

……ん？いつもの話し方と違うだと？……ソコのところは突っ込まないでもらおうか。

っと、そんなことを考えていたら、前方に恐らくセキュリティのガードマン×3が暇そうに立っている。

「オレさ、今日の仕事が終わったら、あの子に告白するんだ（＊、＊）」

「へーとうとうか。実はな、おれもなんだ（＊、＊）」

「オイオイ、お前ら幸せそうな顔すんなよ！……俺もさ（＊、＊）」

おー何だったか……確か、”死亡フラグ”って言われているアレなのか？

……この幸せそうな奴らを見ていると苛立つてくるな………殺るか《やるか》

左手を前に突きだしながら念じると両端に矛先の付いた長槍が現れる。

「む？おい！此処から先は立ち入りき「邪魔だ！」ぐあっ！！？」

口封じを兼ねて長槍をセキュリティの一人の脇腹に突き刺し、そのまま壁に張り付ける。

他の二人は私の出現に驚きはしたものの、持っていた警棒を私の頭目掛けて降り下ろす。

流石に、辺りどころが悪いと一撃で殺られる可能性があるため、身体を捻る事によりそれらを避けてついでに足払いを一人に決める。

「（ゴン！！！！）がつ！？」

見事に後頭部を強打したセキュリティの人間はそのまま動かなくなる。

そして、私は素早く立ち上がり、最後のセキュリティの人間に肉薄し、

「昇●拳！！！！」

顎に全体重を込めたアッパーカットを打ち込む。

殴った時に舌を噛んだのか、最後のセキュリティは血を吐きながら倒れる。

……昇●拳は言ってみただけだ。

最初のセキュリティの人間に突き刺さっている長槍を抜き出し、私は再び走り出す。

（十分後）

「これをこーして、あーして、そーして……………」

無事にセキュリティのデータベースにたどり着き（何人が殺つてしまったが）私は情報を抜き出しながらデータの改竄を行う。

つくづく思うが、こういう仕事は私よりも他の奴に任せた方が良さと思う。

例えば…… プー介は絶対余計なことするな。ルーちゃんは拒否するだろう。ジーさんは目立つし、パラちゃんは違う意味で目立つ。

チノ介はD・ホイールにまっしぐらだから…… 私しかないではないか……？

はあ、どうして私はこんな役ばかりなんだ？ 出来る奴がいらないからといっていつも私も私に面倒な役を回して…… 今度、食事にタバスコとレモンの絞り汁混ぜてやる………！

…… 実際にはやらんがな……！

第10話

苦難の中間管理職（後書き）

ここで突然ですが、アンケートを取らせていただきます。
この先の展開で、とあるキャラを出そうと考えています。

……かなり先ですがね。選ぶのは次のうちの一つです。

A ダグナーの中でも一番影薄いドジっ禿ことデイマクさん（性格
+ デッキの改竄有り）

B GXからまさかのお前か！？空気こと三沢大地さん（デッキはも
ちろん改竄）

C おい、オリキャラ作れよ

です！

皆様のご意見お待ちしております

最終話

近づく足音＋次回予告（前書き）

今回でフォーチュンカップ編は終了です。

今日の一言

………… アンケートに誰か答えてくださいな（出来たら感想も…………）

最終話

近づく足音＋次回予告

Side H・Y

ジャックとのデュエルは最終的には俺が勝った。

だが、そのデュエルの最中に俺はある光景を目の当たりにした。

一つはサテライトが紫色の禍々しい炎によって消える映像。

そして、もう一つは暗い祭壇のような場所で六人の人がそれぞれ竜と共に黒い”何か”と戦う姿だ。

その竜は、何体かは見たことがないが俺がよく知る竜達だった。

『つど……………が、あらた……………ひかり……………ひし……………』

星屑を纏い、彼らを守る白い竜。

『…じゃの……………いま……………つをな……………んちめい……………』

先ほどの竜とは違い、先陣をきって攻撃する赤黒い竜。

『つめ……………い……………せか……………べてを……………しっこ……………』

プレスによって黒い”何か”を威嚇する赤い薔薇の竜。

『……………み……………い……………もるた……………ゆう……………ちか…………………………レヴオリ……………』

筋ばった甲殻を持ち、仲間に生命力を与える黄色の竜。

『せい……………いのひ…………………………こつり……………』

妖精のような翼から光を放ち、相手を弱らせる青い竜。
そして、それらを束ねる、

『……すべ………をまも………んかい………ひか………や………
ここ………のかた………』

” 赤き竜 ”

あの戦いがどうなったかは分からない。
だが、俺は直感した。

これから先、あの戦いは再び起こり、サテライトがその舞台となる
のではないかと。

――――

次回予告（別名、ちょっとだけよ劇場）

「あつ！？ダークシグナー？なんじゃそりゃ？」

青年は仮面を被る

「しつこい奴にはD・ホイールでダイレクトアタック……！」

道化を演じ、本番を待つ

「アキ、私は帰ってきたんだ。彼女に復讐するためにね」

復讐の炎は縛られし神の祝福を得る

「ようやく、”私”の本気を出せるな」

それが引き金となり、伝説がようやく、甦る

「人々よ、見るが良い。自らの罪の形、忘却の咎を……シンクロ召喚！咆哮せよ、人造機竜エターナル・ファフニール……！」

やがて、

「サヨナラだ、ドラゴン・レッグのシグナー」

絶望の未来へのカウントダウンが始まる

最終話

近づく足音＋次回予告（後書き）

メビウス「おい、作者。何だよ、このネタバレ軍団！！！？Σ（」
「111）」

イヤゝ調子にのっちゃってねえゝ

まあ、大丈夫だ問題無い（＾o＾）b

メビウス「イヤ、問題あるわー！！！！」

気にしちゃいかんよ、いい若者が

メビウス「……………もう、知らんわ」

第1話

人へのあだ名は計画的に！（前書き）

劇場版遊戯王のDVDが届きましたが、時間がなくて見れません（T^T）

今日の一言

試験的にお触れホルスを作りましたが、すごく重い……

第1話

人へのあだ名は計画的に！

Side I

「頼むく放してくれく俺は無実だあくくく！！」

セキュリティのデータベースに侵入者がいるため、逆探知をして犯人の居所を突き止めたのですが……

「あーもう、先ほどから申している通り、あの部屋からセキュリティのデータベースにハッキングが行われていて、貴方しかあの部屋にはいなかったのですよ！？でしたら、貴方しか犯人はいないではないですか！！！」

「だーから、俺はあそこへ行けって呼び出されたんだよ！………来たたら、”同族感染ウイルス”くれるって（ボソツ）」

「禁止カードですよ、それ！？しかも、カードで釣られないで下さい！！………後、呼び出した人の名前や姿を教えて下さい」

「……………えーっと……………体長3mの女の子」

「そんなの有り得ませんよ！！しかも、そんなに大きいなら、女の子ではないでしょう！」

という感じで先ほどからはぐらかされています。

因みに、私が捕まえているのは、デュエルオブフォーチュンカップの準優勝者であるメビウスで、今はロープでグルグル巻きです。

……それにしても、すごく五月蠅いですね。

「はあ、これから貴方をゴドウィン長官の下へ連れて行きます」

「なああああにいいいい！！！？俺は何もしていない！！…

…俺は悪くねえよ、ドングリピエロ！！！！！」

「…………最後の言葉は貴方がしたのを認めているようなものですよ。後、何ですか？そのドングリピエロとは？」

彼の相手は疲れますので、少し語彙を弱めてみました。

それにしても、ドングリピエロ。はて、何処かで聞いた覚えがありますね。

彼はニヤリと笑いながら私の質問に答えます。

「フッフッフ、それはなあ……………なんとなく？」

「…………貴方は……………貴方はなんとなく人にあだ名を付けるのですか！！？」

少し期待した私が馬鹿みたいではないですか！
もう良いです。絶対に彼を許しませんよ……………！

「さあ！行きましょうか！！」

「くっ首のロープを引っ張るな！死ぬって、流石に死ぬって！！！」

彼が何か言ってますが知りません！私は怒らせると怖いのです！！

第1話

人へのあだ名は計画的に！（後書き）

あれ？イエーガーさんとメビウスのコンビが書きやすい……だと……！？

第2話

頼られても断れない……（前書き）

さて、久しぶりに更新します。

今日の一言

わーいわーい、リバイスドラゴン当たったー（棒読み）
エクストラ………に空気がない………だと……！？

第2話

頼られても断れない……

Side L・G

「長官、失礼します。侵入者を捕らえました」

ドアが開き、イエーガーが私の前に来ました…… ロープでグルグル巻きにしたフォーチュンカップ準優勝者、メビウスを連れて。

「彼が侵入者ですか？」

「はい！セキュリティのデータベースに不正にアクセスしていたところを現行犯で捕まえました」

「ふむ……（彼は一応、シグナーの候補ですから手元に置きたいですね。違っても、ダークシグナーとして覚醒させるのも面白い……）メビウス君、一つ取引をしませんか？」

「………何だよ、まさかセキュリティに入れーとか言うんじゃないだろうな？」

ジト目でこちらを見ながら彼は聞く。

私はそれに対して口元に笑みを浮かべながら要件だけを告げました。

「実は、フォーチュンカップ優勝者の不動遊星が今、行方知れずなのです。なので、彼を探してもらえませんか？」

「………ホワイ？あいつが行方不明？？それを探せ？？？」

「貴方なら出来ると私は思います。それに、受けてくれるのなら今回のセキュリティへの不正アクセスの件は無しにしましょう」

「ゴ、ゴドウィン長官！？よろしいのですか！！？」

「構いませんよ、イエーガー。私は治安維持局長官なのです？私が良いと言うなら良いのです」

職権乱用ですがね……

「さて、メビウス君。貴方はどうしますか？」

「……………俺に意見の自由がねえじゃねえか。分かったよ……………やるよ、その仕事」

「流石はフォーチュンカップ準優勝者ですね。中々に賢い」

さあ、これから働いていただきますよ

第2話

頼られても断れない……（後書き）

ゴドウィンの口調が分かりません……

第3話

紫炎の中で会いましょう？（前書き）

……いえ、中で会ってません！！Σ（□、；）

さて、この小説でたぶん一回しか出ないであろう人のご登場です。
この時はいなかったかもしれませんがね。

今日の一言

ATKが一万を超えるモンスターをはじめて出せました……（TF
のスキエル＋一族の結束×2）

第3話

紫炎の中で会いましょう？

S i d e R・G

「ふん、勝負は見えたか……」

紫炎にて描かれたサーキットの中、ダークシグナーの切り札である地縛神の一体が赤き竜のシグナーに止めを刺すためその力を振るう。

「ありやりや、ヤバそうなモンスターだな〜」

「ぬ！？貴様、何者だ！！」

いつの間にか、隣でニヤニヤと笑いながら立つ男が大袈裟な身振りで私に名乗る。

「俺はメビウス。とある権力者に依頼された哀れな一般市民ですよ」

「メビウス？あのフォーチュンカップで不動遊星に負けた男か……」

「ええっ！？酷い覚えられ方！！」Σ（□ 111）「

露骨に肩を落としながら奴は私にさらに話しかける、

やけに平坦な声で。

「ところでオッサンこそ何者？服装からして一般ピーポーと違うけど？？」

「（オッサン……だと……我が名はルドガー、ダークシグナーの蜘蛛の痣を持つ者だ」

「あ！？ダークシグナー？なんじゃそりゃ？」

今度はバネ仕掛けの人形のように勢いよく体を起こし、分からないことをその言葉で伝えるが、

その目はまるでガラス玉のように景色を映しているだけだ。

「貴様は……人間なのか……？」

ダークシグナーになってからはじめて私は他者を恐れた。

奴は……メビウスは私達、ダークシグナーよりも禍々しい”何か”のように見えた。

「さあ？アンタにはナニに見える？」

ぞくっ

”これ”を敵に回してはならない。

ケラケラと嗤う奴の姿に私は本能的に逃げ出した。
左腕の蜘蛛の痣が疼く。
まるで、奴から早く逃げると言うように。

S i d e c h a n g e ↓ s i d e Z ・ M

「あらー逃げちゃった」

まあ、あんなヤバそうな雰囲気を出していたら普通は逃げ出すからな。

今個々で奴と決闘するのはデメリットが多い。

「そんじゃ、サクツと遊星を拉致ってトンスラこくか！」

レクス・ゴドウィンの興味を既に引いてしまったから難しいな……
…アイツの干渉は出来るだけ避けたい。

「ハァー………前途多難ってヤツだな」

嗚呼、早くヘルプ来い………（　　T D T　　）

第3話

紫炎の中で会いましょう？（後書き）

………狂気っぽく書くの凄く書きやすい………
私、大丈夫か！？

第4話

D・ホイールってパンクしないのかな？（前書き）

タイトルは私の疑問で今回は意味はありません。

今日の一言

新パックを買ったら、ブラック・レイ・ランサーが当たりました。
真ん中の方から選んでくれたおばちゃん、ありがとう！

第4話

D - ホイールってパンクしないのかな？

Side K・H

鬼柳とのデュエルで遊星は脇腹に重症を負い、今はマーサの治療を受けている。

俺の知らない間にヤバイことに遊星は巻き込まれたみたいだ。

「なんでこんなことになっちまったんだよ……遊星、鬼柳……クソッ!!」

苛立ちに身を任せて壁を殴る。

壁に変化はなく、俺の拳が痛くなっただけだ。

その時、

ドドドドドドドド!!……!!

キイイイイイ!!……!!

「な、なんだあ!!?」

低音と高音が混じったようなエンジン音が響き、紅いD - ホイールが俺の前に現れる。

「やあ、こんにちは(*・_・)ノ不動遊星って奴知らね？」

D - ホイールから降りた男がおちよくるように俺に聞く。

……まさか、あのダークシグナーって奴の仲間か!?

「デメエは何者だ!!」

「何者ねえ……とある有力者に買収された者ですが？」

どこまでもおちよくるのを奴は忘れない。

とことんふざけた奴だな！！

「遊星の居場所を教えて欲しかったら、デュエルで俺に勝つんだな！」

デュエルディスクを構え、俺がいい放つと奴は肩を落としながら聞いてくる。

「……………どうしてもデュエル？」

「当然だ！」

「……………ババ抜き駄目？」

「なんで、ババ抜きで他人のことをかけなきゃなんねえんだー！」

「……………分かったよ」

しびしびといった感じで奴がディスクを構える。

そつこなくつちな！

「デュエルー！」「デュエル……………はぁ（胃が痛いのに……………）」

第4話

D・ホイールってパンクしないのかな？（後書き）

さあ、次回は我らが主人公メビウスvs鬼畜フェザー使い、クロウとのデュエル！！

………勝てないだろーなー………

第5話

黒い暴風警報発令中（前書き）

タイトル通りです。

デュエル自体はすぐに終わります（たぶん）。

今日の一言

銀河眼の光子竜のホロが出たー！！（ついでにブリリアントのアル
ティメットも）

コレは……フォトンデッキを作れということか……

第5話

黒い暴風警報発令中

Side ?

CROW VS MOBIUS

「そんじゃ、俺の先攻。ドロー……」

あまりやる気を感じられない声とともにカードを引くメビウス。
その姿にクロウは何か言いたげだが彼は無視する。

「"UFOタートル"を守備表示で召喚。カードを二枚伏せてターンエンド」

「俺のターン、ドローだ!!」

引いたカードを見て笑みを浮かべるクロウ。

「まずは、"BF - 蒼炎のシュラ"を召喚、更に、場に同名以外の
"BF"が存在する時、"BF - 黒槍のブラストと"BF - 疾風の
ゲイル"を特殊召喚する！まだ終わリじゃねえぜ？発破の点火オー
ライ！手札から罨起爆、"デルタ・クロウ・アンチ・リバーズ"！
こいつは自分フィールド上に"BF"と名のつくモンスターが三
体以上存在する時に手札から発動出来る。相手フィールド上のセツ
トカード全てを破壊する！」

BF - 蒼炎のシュラ ATK 1800 DEF 1200 鳥獣族・効果

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、自分のデッキからATK 1500以下の”BF”と名のついたモンスター一体を自分フィールド上に特殊召喚することができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

BF - 黒槍のブラストATK 1700DEF800鳥獣族・効果

自分フィールド上に”BF - 黒槍のブラスト”以外の”BF”と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚することができる。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、そのDEFをATKが超えていれば、その数値だけ相手LPに戦闘ダメージを与える。

BF - 疾風のゲイルATK 1300DEF400鳥獣族・チューナー

自分フィールド上に”BF - 疾風のゲイル”以外の”BF”と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚することができる。ターンに一度、相手モンスター一体のATK・DEFを半分にすることができる。

「ちょ、え！？なんじゃそりや！？リバーズカードオープン、”強欲な瓶”！カードを一枚デッキからドロ―する（…………ミラフォ（´・ω・｀））」

青い羽毛の鳥人と大きな黒槍を持った鳥人、紫色の羽毛の小さな鳥

人（可愛らしい）が力を合わせ、爆発を起こす。

爆風にリバースカードが一枚飲み込まれるが、瓶は無事だった。

「いくぜ、”BF - 疾風のゲイル”の効果で”UFOタートル”のATKとDEFを半分にする！バトル！！”黒槍のブラスト”で攻撃だ！」

UFOタートルATK 1400 ↓ ATK700 DEF1200
↓ DEF600

UFOタートルDEF 600 vs BF - 黒槍のブラスト ATK
1700

MOBIUS LP 4000 ↓ 2900

「”UFOタートル”の効果で”UFO”をもう一度召喚！」

「なら、”蒼炎のシュラ”で攻撃！」

UFOタートルATK 1400 vs BF - 蒼炎のシュラ ATK
1800

MOBIUS LP2900 ↓ 2500

「”UFOタートル”の効果で、今度は”仮面竜”を召喚！」

「”BF - 蒼炎のシュラ”の効果で”BF - 銀盾のミストラル”を召喚！」

B F - 銀盾のミストラル A T K 1 0 0 D E F 1 8 0 0 鳥獣
族・チューナー

フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地に送られた場合、
このターン自分が受ける戦闘ダメージを0にする。

「そして、L v 4 ” B F - 黒槍のブラスト ” にL v 3 ” B F - 疾風
のゲイル ” をチューニング！黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼とな
れ！」

4 + 3 ≡ 7

「シンクロ召喚！現れろ、B F - アーマード・ウイング！更に、
L v 4 ” B F - 蒼炎のシュラ ” にL v 2 ” B F - 銀盾のミストラル
” をチューニング！漆黒の力、大なる翼に宿りて、神風を巻き起
こせ！」

4 + 2 ≡ 6

「シンクロ召喚！吹き荒べ、B F - アームズ・ウイング！！」

B F - アーマード・ウイング A T K 2 5 0 0 D E F 1 5 0 0 鳥
獣族・シンクロ

” B F ” と名のついたチューナー＋チューナー以外のモンスター一
体以上

このカードは戦闘では破壊されず、このカードの戦闘によって発生
する自分への戦闘ダメージ

ジは0になる。このカードが攻撃したモンスターに楔力ウンターを
一つ置くことができる。（最大

一つまで)。相手モンスターに乗っている楔カウンスターを全て取り除くことで楔カウンスターが乗っていたモンスターのATK・DEFをこのターンエンドフェイズ時まで0にする。

BF - アーマード・ウイング ATK 2300 DEF 1000

鳥獣族・シンクロ

”BF”と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター一体以上

このカードが守備表示モンスターを攻撃する場合、ダメージステップの間ATKが500upする。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、そのDEFをATKを超えていれば、その数値だけ相手LPに戦闘ダメージを与える。

「カードを一枚伏せてターンエンド!!」

「……………ヤツパ、キツいな」BFは

「あ!?!おまつ、他のBF使いとデュエルしたことあるのか!?!」

「ん?ないよ」

「んじゃ、さっきの言葉は!?!」

「噂よ、う・わ・さ」セキュリティに何度も捕まったデュエリストの噂だね」

おちよくるように左手の人差し指を回しながらメビウスはけけら

と笑う。

第5話

黒い暴風警報発令中（後書き）

……BFのテキスト書くの疲れる

第6話

黒い暴風警報並びに、大雨火の海警報発令!!とところによりお

新作として、TOVの小説を書き始めました。

フィールドのおさらい

メビウスLP2500

手札四枚、仮面竜

クロウさんLP4000

手札一枚、BF-アーマード・ウイング、BF-アームズ・ウイング、セットカード一枚

今日の一言

勉強合宿疲れた……

第6話

黒い暴風警報並びに、大雨火の海警報発令！！ところによりち

Side K・H

”BF”のシンクロモンスターは今のところ三体いる。

今、俺のフィールドにはその”BF”のシンクロモンスター、”
アーマード・ウイング”と”アームズ・ウイング”の二体が揃って
いる。しかも、セットカードは”魔宮の賄賂”だ。”ブラックホー
ル”でも”ライトニング・ボルテックス”でもかかってこい！！つ
てことさ。

・・・

普通の奴なら、この状況を覆すのは骨が折れるはずだ。

だが、奴は…………

「俺のターン、ドロー」

・・・

普通じゃなかった。

「手札から、魔法カード”暗黒界の取り引き”を二枚、発動。互い
のプレイヤーはデッキからカードを一枚、ドローして、手札から一
枚捨てる」

俺が引いたカードは”フェザー・ウインド・アタック”と”黒い旋
風”！！こいつは捨てられねえな。

俺は手札から二枚目の”デルタ・クロウ・アンチ・リバーズ”と”
フェザー・ウインド・アタック”を墓地に捨てる。

「さらに、永続魔法”相反す逆転”発動！一ターンに一度、墓地、

手札、フィールドのカードの属性を変える。但し、火属性なら水に、風属性なら地に、光属性なら闇にしか出来ないがな。俺は”UFOタートル”の属性を水に変える！墓地の”UFOタートル”二体と”氷帝メビウス”を除外して”氷炎の双竜”を特殊召喚する！そして、”氷帝メビウス”が除外されたことにより墓地の”氷帝侍女長”の効果発動！”氷帝メビウス”をアドバンス召喚扱いで特殊召喚する。”氷帝メビウス”の効果でセットカードを破壊する！！”

氷帝侍女長ATK 1100 DEF1500 水族・効果

このカードが墓地に存在しなかつ”氷炎の双竜”がフィールド上に存在する場合、このデュエル中に一度だけ除外された”氷帝メビウス”をアドバンス召喚扱いで特殊召喚することができる。

………は？

いつの間にか奴の場にはATK2300とATK2400のモンスターが存在し、俺のセットカードは破壊された。しかも、奴の手札はまだ二枚残っている。

「手札から”ライトニング・ボルテックス”発動！手札一枚をコストにして相手フィールド上の表側表示のモンスター全てを破壊する！！」

「何い！？このタイミングでかよ！！？」

「……………最初負けるかと思ったけど、いけたわコレ」氷帝メビウス”と”氷炎の双竜”でダイレクトアタック！！！！」

CROW LP 4000 ↓ 0

「だああああ……………負けた……………」

「おつしゃ、んじゃ遊星の居場所教えてもらお『ガゴーン』『グハ
アアア……………！！！！』」

「うるさいよ！！今、何時だと思っているんだい！！？」

「マ、マーサ！！？」

マーサが投げた中華鍋が奴の頭にクリーンヒットし、奴は目を回して
気絶している。

……………少し同情するぜ。

マーサに説教されながら、俺は奴をマーサハウスまで引っ張る。
こいつが起きたら色々聞かなくちゃなんねえからな！

第6話

黒い暴風警報並びに、大雨火の海警報発令!!とところによりち

……おばちゃんは最強!!

なお、本日の今日の最強カードのコーナーは司会者メビウスが気絶
しているためお休みです。

第7話

早すぎた邂逅（前書き）

今回、書き方を少し変えてみました。

今日の一言

眼科で、0・0の領域に視力が逝ってしまった……

第7話 早すぎた邂逅

Side H・Y

どうして、こうなったんだ？

「テメエ、待ちやがれ!!」

「今なら、悪いようにはしませんよ!!」

「古来より、そう言われて止まっても、悪い目に合うのはテンプレなんだよ!!」

そう言いながら、メビウスは何処からか撒き菱を取りだし、撒くのではなく……投げつける。

クロウと何故かいる、イエーガーはそれを避けて再びメビウスを追う。

「さつさと止まれええ（りなさいい）!!!!」

「やめられない、止まらない！俺は……しつこい奴は嫌いだ。だから……」

マーサハウスの裏に回り、メビウスが叫ぶ。

「しつこい奴にはD・ホイールでダイレクトアタック!!」

D・ホイール——ロンギヌスに跨がり、エンジン音を轟かせるメビウス。

その目には怪しい光が宿っている。

「コレは……まずいですね（――；）」

「お、おい……それは無しだろ！？」

「さあ………ショーの始まりだ！！」

あ、二人とも終わったか？

獵犬のように、メビウスはロンギヌスを上手く操って、一ヶ所にクロウとイエーガーを集める。

そして、メビウスはそのまま………逃げた。それはもう、脱兎の勢いで。

「H A H A H A H A H A 、さらばだ諸君！！イエーガー！依頼はもういいだろう？俺は、暫く旅に出る！！」

「ええええええ！！？ちよつと、待って下さい、メビウスー！！！」

イエーガーが追い付くはずがないが走ってメビウスを追い掛け、呆然とした様子のクロウに俺は近づく。

「クロウ………状況を説明してくれ……」

第7話

早すぎた邂逅（後書き）

今回の邂逅とはクロウとイエーガーが出会ったことです。
因みに、何があったのかと言うと、

メビウスがクロウとマーサに捕まる

←

イエーガー、メビウスの定期報告が途切れたので来る

←

クロウ、イエーガーにメビウスのこと聞く

←

メビウス、起きて現状把握する（クロウ、イエーガーはいない）

←

メビウス、ヤバイと感じて脱走

←

クロウ、イエーガー、メビウスの脱走に気付く

←

小説冒頭になる

つまりはメビウスの早とちりですね！

第8話

ぶらり男の一人旅（べ、別に寂しくないもん！）（前書き）

どうやらアンケートはみなさんの記憶から消去されているもようです……

オリキャラ……出しますか……

今日の一言

異次元からの帰還、シングル¥100で買いました。

感想やご意見、いつでもお待ちしております。

第8話

ぶらり男の一人旅（べ、別に寂しくないもん！！）

Side ?

サテライトとシティを繋ぐための橋——ダイダロス・ブリッジ。
未だ、建設途中のその橋の袂でその男は嘆いていた。

「ううっ……………なんで口座を教え忘れてたんだろな（涙）」

男は自分の頭を抱えながら地面に跪いている。

彼はフォーチュンカップにて、メビウスとデュエルを行った雇われ
デュエリスト、人影（本名、サザ・パルナ）だ。

メビウスの力を見極めるため、彼がシグナーであるか確かめるため
に治安維持局長官ゴドウィンに人影は雇われたのだが、報酬を振り
込むための口座を教え忘れていて、改めて教えると依頼のことをう
やむやにされ、彼は失意の底に落ちていた。

「別にさあゝふんだくっていた訳でもないしゝむしろ、良心的な値
段だったのによゝなゝんで、払ってくんないのさゝゝ」

……………どうやら、彼は酔っているようだ。

安酒をしこたま飲んで酔った彼に近付く者は普通はいない。

そう、

「お！なんか見たことある顔だと思ったら、人影だっけか？おひさ
（　　）」

空気の読めない者以外は……

「あ？……… テメエは、メビウス！！」

「……… その間は何だよ… まあ、良いや。なあ、人影………」

D・ホイールに跨がり、脱力して俯くメビウスは人影に近づき、手を差し伸べる。

「旅に……… 出ないか？」

「イヤ、何でだよ！？いきなり来て言うことかそれ！？第一、俺は

暇じゃねえー！！！！」

「暇じゃねえーってまあ、良いじゃないか。…………正直独りは寂しいな、俺」

「おもつくそ、本音出てたぞ！？後、寂しいなら旅に出るな！！！」

「（・ω・）」

「変な顔すんな！！！」

端から見れば漫才のような行為を行う二人。

一応、本人達は真面目にやっているの、そこは分かって欲しい。そんな二人に影が二つ、笑いながら近付く。

「おたくら楽しそうじゃねえーの？」

「俺達さあ、最近不景気でゼーんぜん楽しくないのよ。だからさあ…………」

「あんたらのレアカード、全部くれねえか？タダで」

デュエルギャング

デュエルにより、カードや金を奪うならず者達。

中には、義賊のような行いをズルズル者もいるが、主だったデュエルギャングは文字通り傍若無人な行為を行う。

彼らも後者に属するが、今回は相手が悪かった。

「あぁっ？何だ、テメエら？俺は今機嫌が悪りーんだ……………本気で潰すぞ、三下」

「んー？お前らさぁー初対面の人にいきなりそんなこと言うかね？…………俺も加勢するぜい！！」

第8話

ぶらり男の一人旅（べ、別に寂しくないもん！！）（後書き）

ウム……………見事にタイトル詐欺ですな、今回

新禁止・制限リスト……どうしてこうなった！！（涙）

「ある日の夕暮れ」

……あのカードが戻ってくる……だと……！？

メビウス「オイ、どうしたよ、作者」

これを見たまえ……メビウスよ

メビウス「あ？……何が起こったんだよ、コレ！？」

遊星「？二人とも何を見て……何！？」

ブルーノ「まだ僕、小説で出てないけど良いのかな……ところで
皆、どうしたんだい？」

……ブルーノちゃん、私達はコレを見ているんだ

ブルーノ「コレって……今度の禁止・制限リスト？」

遊星「ああ、そうだ」

新禁止カード

ハリケーン

王宮の弾圧

メンタルマスター

フィッシュボーグ・ガンナー

新制限カード

カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -

大嵐

真六武衆 - シエン

紫炎の狼煙

貪欲な壺

TG ハイパー・ライブラリアン

デブリ・ドラゴン

ローンファイア・ブロッサム

フォーミュラー・シンクロン

原初の種

新準制限カード

マインドクラッシュ

リビングデットの呼び声

召喚僧サモンプリースト

氷結界の虎王ドウローレン

デステイニー・ドロー

光の護封剣

トラゴエディア

ネクロ・ガードナー

制限解除カード

裁きの龍

サイクロン

魂を削る死霊

オーバーロード・フュージョン

巨大化

グラヴィティ・バインド - 超重力の網 -

ゴッドバード・アタック

メビウス「ぶつちゃけ、俺の被害は無いに等しいんだが……」

遊星・ブルーノ「orz」

ライブラリアンは私、一枚しか持ってないしな……ハリケーンと大嵐はまあ、良いとして

遊星「フォーミュラ・シンクロンとデブリ・ドラゴンが持っていた……」

ブルーノ「ライブラリアン……貪欲な壺も辛いけどね……」

一番問題なのは、

カオス・ソルジャー - 開闢の使者 -

何で、戻ってきたし！！

メビウス「また、開闢の時代が来たのかよ。ソーサラーだけでも嫌なのに」

遊星「そのうち、混沌帝龍・終焉の使者・も帰って来るかもな……」

ブルーノ「それは無いとは思うけど、天使の施しが帰って来たらいいな」

メビウス「……それも無いと思うぞ」

っていうか、何故血の代償禁止ならないのだ！！？あれとハードアームとオベリスクはワンサイドゲームになるわ！！！！

メビウス「それはお前のデッキがパワー不足だからだろ」

ブルーノ「けど、レダメは規制かかってても良いんじゃないかな？」

ブルーノちゃん、それは全国のドラゴン使いさんが泣くよ……

メビウス「むしろ、規制かけるなら強者の苦痛かな。二枚使われたら、ほぼ終了だし」

………だよな

おしまい

第9話

全力の切り札、アサルト・モード……（前書き）

サザ・バルナ
人影の真の切り札発動……！！

今日の一言

龍の鏡が見つからない……………どうしょorz

第9話

全力の切り札、アサルト・モード！！

Side MOBU

「「「デュエル！！」「」「」

HITOKAGE & mp;MOBIUS vs MOBU1 & am
p;MOBU2

タッグデュエルのルールはタッグフォースのルール（LP8000
で）に準拠します。

「俺の先行、ドロー！！」ライオ・アリゲーター」を召喚。カード
を二枚伏せてターンエンド」

ライオ・アリゲーター ATK 1900 DEF 2000 爬虫類族・
効果

自分フィールド上にこのカード以外の爬虫類族モンス
ターが存在する場合、自分フィールド上に存在する爬
虫類族モンスターが守備表示モンスターを攻撃した時、
そのDEFをATKが越えていれば、その数値だけ相手
LPに戦闘ダメージを与える。

俺の相方は爬虫類族デッキの使い手だ。

オレンジ色の鬣を持つ緑色の鰐が相棒のフィールドに現れる。
さあ、いきなりATK1900だぜ？俺達に勝てるかな！？

「メビウス、俺が先に行くぜ！俺のターン、ドロー！！モンスター

を裏守備で出し、カードを三枚伏せてターンエンドだ!!」

何だぁ? あいつ、威勢の良いのはデュエル前だけか!?

まあ良い。俺があいつらに地獄を見せてやらぁ!!

「俺のターン、ドロー!!」切り込み隊長”を召喚! 効果で、”共闘するランドスターの剣士”を手札から特殊召喚するぜ!! Lv 3”切り込み隊長”に同じくLv 3の”共闘するランドスターの剣士”をチューニング!!」

切り込み隊長 ATK 1200 DEF 400 戦士族・効果

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限

り、相手は表側表示で存在する他の戦士族モンスター

を攻撃対象に選択することはできない。このカードが召喚に成功した時、手札からLv 4以下のモンスター1体を特殊召喚することが出来る。

共闘するランドスターの剣士 ATK 500 DEF 1200 戦士族・チューナー

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限

り、自分フィールド上に表側表示で存在する戦士族モンスターの ATK 400 upする。

Lv 3 + Lv 3 = Lv 6

「駆け抜ける、大地の使徒！正義を貫き通せ！！シンクロ召喚、二槍の担い手、”大地の騎士ガイアナイト”！！！」

大地の騎士ガイアナイト ATK 2600 DEF 800 戦士族・シンクロ

チューナー+チューナー以外のモンスター一体以上

こいつはセキュリティのやつらが使う”ゴヨウ・ガーディアン”を除けばLv 6シンクロモンスターで最強のATKを誇る。

俺の切り札を出すためのキーカードだぜ！

「行くぜ！先ずは、”ライオ・アリゲーター”で裏守備のモンスターを攻撃！」

裏守備のモンスターは”ピラミッド・タートル”めんどくせえ、アンデットのリクルートモンスターだ。

ライオ・アリゲーター ATK 1900 vs ピラミッド・タートル DEF 1400

HITOKAGE & amp; MOBIUS LP 8000 ↓ 7500

「”ピラミッド・タートル”のモンスター効果発動！！デッキから、”ピラミッド・タートル”を守備表示で特殊召喚する！」

「しゃらくせえ！」大地の騎士ガイアナイト”で攻撃！！グラウンド・ブレイカー！！！」

ガイアナイトが槍を構えながら、ピラミッド・タートルを引き潰す。
ざまあ見やがれ！！

「……………もう一度、”ピラミッド・タートル”を召喚する」

「ターンエンドだ。どうしたよ、俺達のカードにビビったか？あゝん??？」

「はい、スゴいですねえーカッコいいですねえー（棒読み）俺のターン、ドロー」

もう一人の奴が生暖かい目で俺達を見やる。
おい、テメエら絶対、叩き潰してやる！

「裏守備でモンスターを出して、エンド」

「やる気あんのか、テメエら！！？」

「慌てない、慌てない。デュエルはまだ始まったばかりだぜい？」

……………

絶対対潰す！！！！

HITOKAGE & MOB IUS LP 7500
手札、二枚、五枚

フィールド、ピラミッド・タートル、裏守備モンスター一体、セツ
トカード三枚

MOBU 1 & MOB U 2 LP 8000

手札、三枚、四枚

フィールド、ライオ・アリゲーター、大地の騎士ガイアナイト、セ
ットカード二枚

「俺のターン、ドロー!!!……バトル、”ライオ・アリゲーター”
で”ピラミッド・タートル”を攻撃!」

HITOKAGE & MOB IUS LP 7500 ↓ 7000

「”ガイアナイト”で裏守備モンスターを攻撃!」

「裏守備モンスターは”仮面竜”だ。デッキから、二体目の”仮面
竜”を召喚」

「チツ………ターンエンド」

さつきから、あいつらリクルートモンスターばかり出して……勝つ
気あんのか?

「俺のターン、ドロー!!!………メビウス、このターンで終わらせ
るぜ」

「OK♪思いつきやりな!」

何い！？ワンターンkill宣告か！！？

「フィールド魔法、”アンデットワールド”発動。そして、チューナーモンスター、”ゾンビキャリア”召喚！Lv 4”仮面竜”にLv 2”ゾンビキャリア”をチューニング、死せる皇帝、その身を強き形に具象せん！！」

4 + 2 = 6

「シンクロ召喚、再臨せよ、”デスカイザー・ドラゴン”！！！！さらに、効果発動！相手の墓地のアンデット族モンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。”切り込み隊長”を頂くぜ、まだまだあ、罫カードオープン、”バスター・モード”！来い、”デスカイザー・ドラゴンノバスター”！！効果で、”デスカイザー・ドラゴン”、”ゾンビキャリア”、”仮面竜”を特殊召喚する！！そして、バトルだ。”デスカイザー・ドラゴンノバスター”で”大地の騎士ガイアナイト”を攻撃！」

デスカイザー・ドラゴンノバスター ATK 2900 vs 大地の騎士ガイアナイト ATK 2600

「甘い！リバーズカードオープン、”サンダー・ブレイク”！手札一枚を墓地に送り、”デスカイザー・ドラゴンノバスター”を破壊だ！！」

「それはどうかな？…………罫カードオープン、”アサルト・モード”！！自分のフィールド上の”ノバスター”と名の付いたカードと

チューナー、チューナー以外のモンスター一体を墓地に送り、デッキから、墓地に送った”ノバスター”と名の付いたモンスターと同じ名前を含み、尚且つ”Ωアサルトル”と名の付いたモンスターを特殊召喚する！！さあ、これが切り札だ！！現れよ、”デスカイザー・ドラゴンΩアサルトル”！！！！！！”

デスカイザー・ドラゴンノバスターを闇色の閃光が貫き、最強のアンデット族モンスターが現れる。

デスカイザー・ドラゴンの体に水晶のような甲殻ができ、翼は四枚に増えてより鋭くなっている。

『……………！！！！！！』

形容し難い鳴き声を上げ、それはフィールドに降り立った――まるで、皇帝のように優雅に、力強く。

「”デスカイザー・ドラゴンΩアサルトル”の効果発動。相手フィールド上のアンデット族モンスター全てのコントロールを得る！！」

……………は？

デスカイザー・ドラゴンΩアサルトル ATK 4000 DEF 3000
アンデット族・効果

このカードは通常召喚できない。このカードはアサルトル・モ―

ドの効果でのみ特殊召喚することが出来る。このカードはカード効果では破壊されない。このカードが特殊召喚に成功した時、相手フィールド上のアンデット族モンスター全てのコントロールを得る。このカードが破壊された時、墓地のデスサイザー・ドラゴンノバスターを召喚条件を無視して特殊召喚することが出来る。

「では、総 攻 撃 D A ! ! !」

「なんじゃ、そりゃあああああ!!!!??」

第9話

全力の切り札、アサルト・モード!!（後書き）

メビウス「いやあ、今回は酷い。凄く、酷い。では、本日のチートカードはこれだ!」

デスカイザー・ドラゴンΩアサルト閻属性LV12 ATK 40
00DEF3000アソット族・効果

このカードは通常召喚できない。このカードはアサルト・モードの効果でのみ、特殊召喚することが出来る。このカードはカード効果では

破壊されない。このカードが特殊召喚に成功した時、相手フィールド上のアソ

ット族モンスター全てのコントロールを得る。このカードが破壊された時、墓

地のデスカイザー・ドラゴンバスターを召喚条件を無視して特殊召喚

することが出来る。

メビウス「……………唯一の弱点はアサルト・モードの発動条件が厳しいことだが、アソット族だと一気にフィールドにモンスターが並ぶんだよなあ……………スキドレ入れよっかな」

第10話

沸き上がる災厄の象徴（前書き）

今日の一言

イヤホンの片っ方が行方不明になりました（涙）

訂正・感想がございましたら、お気軽にどうぞ

第10話

沸き上がる災厄の象徴

Side H

「あゝ…………やり過ぎたか？」

目の前には、”デスカイザー・ドラゴンΩアサルト”のチートな能力に泣く、デュエルギャングの二人。

「…………俺も、若干引いたゾ（（ノ）」

「…………orz」

…………分かってたさ、あれを使えばかなりの確率で相手を絶望に叩き落とすからな。

だけど、たまには使いたいんだよ！（アンデット族じゃ珍しくカッコいいし）

まあ、そんなこんなで端から見たら変な状態になっていたその時、

ゴオオオオオオオオオオ！！！！！！

「なっ何だ!!?」

「あらゝ……始まったっばいね」

禍々しい、紫炎が天高くまで吹き上がる。

そんな中、メビウスが呑気な声を上げるが、顔は真剣そのものだ。
っていうか、何か知ってんのか!?

「……チヨイと野暮用が出来たから、俺は行くぜい。」アレ”には
近づくなよ?……冗談無しで死ぬぞ」

「はっ?それって「じゃあな」ちよっ!?!待てっ!?!」

D・ホイールに股がり、奴はあの紫炎に向かって走り出す。
俺に疑問を残して……

Side change ↓ side Z・M

……さて、あの紫炎が吹き上がったということはシグナーとダークシグナーのデュエルが始まったみたいだな。

『……………えるか、聞こえるか？』

「む？聞こえるが、何のようだ？」

脳内に響くのはしゃがれた老人の声。

十中八九、ホセだろうな。

『シグナーとダークシグナーの決戦が始まった』

「知ってる。今、そこに向かっているところだ」

『さっすがだね』動きが早いや、キィヒヒヒ』

ホセの通信に割り込むのは、甲高い子供の声。

……………ルチアーノ、人の話に割り込むのは駄目だと思うな。

『……………神がお前に石盤を送った。今回の闘いはお前に任せる、ゼライト』

石盤か……………ということはあのデッキが使えるようになるな。

「了解した。後は任せろ」

そして、俺はD・ホイールのエンジンを噴かし、加速する。

第10話

沸き上がる災厄の象徴（後書き）

漸くメビウスのファーストネーム、ゼライトが出せました。

第11話

再臨するは復讐の炎（前書き）

また話は飛んで、vsミステイ終了後です

……TOVの小説を投稿しようとしたら、エラーにより消滅しましたorz

今日の一言

番外編として、ゼライトが異世界に行く話を書きたい今日この頃。

訂正・感想がございましたら、お気軽にどうぞ

第11話

再臨するは復讐の炎

Side I・A

黒い灰が風に乗って消えていく。

私はミステイとのデュエルに買った。けれども、私の心に残るのは勝利の高揚感ではなく一つの悲しみだった。

「……アキ、そろそろ行くぞ」

「……………ええ」

遊星の言葉に頷き、その場を立ち去ろうとした瞬間

ゴオオオオオオオオオオ！！！！！！

再び、紫炎が地面から現れて私と遊星を阻む壁となる。

けど、ミステイは倒したのに他にもダークシグナーがいるというのかしら？

「フフフフフ……………」

炎の中から黒い影がこちらに歩んでくる……………えっ！？

「そんな……………ダイヴァイン！？」

白眼の部分が黒く染まり、顔には赤いマーカーが刻まれている。
また、右腕は剥き出しとなり木を模した紫色のラインが描かれている。

「アキ、私は帰って来たんだ。彼女に復讐するためにね」

そう言っただけ。歪んでいて、前よりも純粹に嗤う。

だけど、直ぐに無表情となり言葉を続ける。

「だが彼女は負けた。アキ、その事は素晴らしいと思うよ。おめでとう。……………けど、許せないなあ私が完膚なきまでに叩き潰そうと思っただのに……………悪い子だ！！」

デュエルディスクを構え、彼は私を睨み付ける。

「ダイヴァイン、貴方は復讐に取り憑かれている！私が貴方を……………」

…救ってみせる……！」

「アキ！「遊星、先に行つて。後から必ず、追いつくから！」……
…死ぬなよ」

遊星にサムズアップで答え、私もディスクを構える。

「「デュエル……！」」

第11話

再臨するは復讐の炎（後書き）

大急ぎで書いたので短いです。

番外編（仮）Zの平行世界旅行記（前書き）

昨日、ドタバタしていたため連続投稿が出来ませんでしたorz

今日の一言

焼きそばに胡椒をかけないで、おとっさん……………滅茶苦茶辛い（

ＴＤＴ）

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

ネタバレがあるので注意して下さい。

番外編（仮）Zの平行世界旅行記

Side Z・M

それはある日の昼頃だった。

薄暗い部屋の中で俺は自らのD・ホイール、ロンギヌスに取り付けた機械を見て漸く終わったことを実感した。

「フハハハハ！！出来たぞ、ようやく出来たぞ、ZONE！！！」

「……………何が出来たのですか？それにしても、テンションが高いですね貴方は」

テンションが高い！？そりゃあそうだ！ここ最近の徹夜の成果がよー！っやく出来たのだぞ！！

嬉しくて、嬉しくて、暴走しそうだ！（もうしてるのでは？by ZONE）

「フッフッフ……………前に奴等が平行世界から来たと言っていただろう？俺も作っただよ！平行世界への移動手段、名付けて『ビュンビュン跳ぶぞー君』！！」

「ネーミングセンス、何とかありませんかゼライト？流石にそれは

「酷いですよ」

「……うん、知ってるよ。だが、アポリアとパラドックスにネーミングを頼むとイタターな名前になるんだよ。」

アンチノミーいや、ブルーノやZONEだとシンプルになるしな。

「一応、正式名称は『D・トリッパー』って言うけど……」

「それで良いじゃないですか！……平行世界への移動ということは、平行世界の自分に会うかもしれないですね」

「そこらへんは大丈夫！平行世界でも、

……

自分が存在しないという平行世界へ移動するから。篠芽達しのめみたいに憑依はしねえし」

この機能、作るの疲れたんだよね……つとそうだそうだ、

「ZONE、ちょいこれにデッキのデータを入れてくれねえか？」

「？これは……仮面??」

「そそつ、平行世界での通信に使おうと考えてんのさ。因みに、デッキはそこでデュエルする時にZONE達も相手を出来るようにするため、アポリア、パラドックス、ブルーノは既に入れてもらってる」

デザインはそれぞれが被っていた仮面で、ブルーノは赤いサンングラスだ。

パラドックスはSinで、ブルーノはTG……アポリアは事故発

生率の高い機皇帝だ。せめて、機皇兵ならまじだったのに……酷いな（*TOT）

「良いですよ……これで良いですか？」

「ああ、ありがとな………そうじゃ、テスト運転してくる」

「はい、気をつけて下さいね」

それがついさっきだったはずだが……

「「連合に勝利を——！！！！」」

「「帝国こそが最強だあああ！！！！」」

拝啓、旧イリアステル——現チームニューワールドの皆さま、

「雷の暴風！！！！！」

ドカアアアアアン！！！！！！

俺は今平行世界での戦争に巻き込まれています

ヒューーーーーン

げっ！？流れ玉が来たああああ！！！？

番外編（仮）Zの平行世界旅行記（後書き）

……ゼライトは魔法先生ネギま！の魔法世界に跳んでしまいました。

作者は魔法先生ネギま！のコミックを持ってませんが、手に入れ次第番外編の続きを書こうと思います。

時間軸は本編終了後で、魔法先生ネギま！の方は魔法世界の戦争の時です。

第12話

咲き乱れる黒薔薇vs復讐のサイキッカー

前編（前書き）

アキさんvsディヴァインです。

心理フェイズはあまりないと思います。

今日の一言

AIBOOOOOO!!!(DTでクリボーが当たったようです)
)

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

第12話

咲き乱れる黒薔薇vs復讐のサイキッカー

前編

Side I・A

AKIvsDEVAIN

互いに手札を五枚にしてデュエルを始める。

先行はデイヴアインみたいね。

「私のターン、ドロー……………良いカードだ。私は”寡黙なるサイコプリースト”を守備表示で召喚。効果により、手札を一枚墓地に送り今送った”サイ・ガール”を除外する。カードを二枚伏せてターンエンドだ、さあアキのターンだよ」

白い、コードのついた法衣を纏った老人が杖を盾にしながら現れる。

寡黙なるサイコプリースト ATK 0 DEF 2100 サイキック族・効果

このカードは召喚・反転召喚に成功した時、守備表示になる。ターンに

一度、手札を一枚墓地へ送ることで、自分の墓地に存在するサイキック族

モンスター一体を選択してゲームから除外する。このカードがフィールド

上から墓地へ送られた時、このカードの効果で除外したモンスター一体

を選択して特殊召喚する。

サイ・ガール ATK 500 DEF 300 サイキック族・チューナー
ゲームから除外されているこのカードが特殊召喚に成功した時、自分のデッキの一番上のカードを裏側表示でゲームから除外する。このカード

ドがフィールド上から墓地へ送られた時、このカードの効果で除外した

自分のカードを手札に加える。

”サイコブリスト”のDEFは低Lv モンスタの中ではかなり高め。しかも、迂闊に破壊すれば”サイ・ガール”からの手札増強のコンボを決められてしまう。

けど、サイキック族モンスターは大半が効果の使用にLPを支払う必要がある。ならば……

「私のターン、ドロー！」イービル・ソーン”を召喚。効果発動、このカードをリリースして相手LP300ポイントのダメージを与える！」

DEVAIN LP 4000 ↓ 3700

「さらに、デッキから”イービル・ソーン”を二体特殊召喚する。カードを二枚伏せてターンエンド」

バウンドダメージを与えて、削り倒すだけよ！

AKI LP 4000

手札三枚

フィールド、”イービル・ソーン”二体、セットカード二枚

DEVAIN LP 3700

手札二枚

フィールド、”寡黙なるサイコプリースト”、セットカード二枚

「フフっ、この程度のダメージでは私を倒すのは時間がかかるよ？私のターン、ドロー。”寡黙なるサイコプリースト”をリリースして”マックス・テレポーター”をアドバンス召喚！そして、”寡黙なるサイコプリースト”の効果で”サイ・ガール”を特殊召喚する。”サイ・ガール”の効果でデッキの一番上のカードを一枚裏側表示でゲームから除外する。そして、リバースカードオープン装備魔法”念動増幅装置”！このカードはサイキック族モンスターにしか装備出来ない。だが、装備すればそのモンスターの効果の使用にLPを払う必要はなくなる。私は”マックス・テレポーター”に装備させる」

マックス・テレポーター ATK 2100 DEF 1200サイキック族・効果

このカードは特殊召喚出来ない。2000LPを払うことで、自分のデッキからLv 3のサイキック族モンスター二体を自分フィールド上に特殊召喚する。この効果はこのカードがフィールド上に表側表示で存在する限り一度しか使用出来ない。

そんな……只でさえ”マックス・テレポーター”の効果は危険なのに、それをノーコストで使えるなんて……しかも、ディヴァインのフィールドにはチューナーモンスターも存在する。

「マックス・テレポーター”の効果で”メンタルプロテクター”を二体特殊召喚する。Lv 3 の”メンタルプロテクター”二体とLv 2 の”サイ・ガール”をチューニング」

メンタルプロテクター ATK 0 DEF 2200サイキック族・効果

このカードのコントローラーは自分のスタンバイエイズ毎に500LPを払う。この時に500LP払えない場合はこのカードを破壊する。このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、サイキック族モンスター以外のAT

K2000以下のモンスターは攻撃宣言をすることが出来ない。

黄色い装甲に包まれた人形二体に”寡黙なるサイコプリースト”に似た法衣を着た少女が緑色の輪となり重なる。

「逆巻け、我が復讐の黒炎！」

3 + 3 + 2 = 8

「シンクロ召喚、来い”メンタルスフィア・デーモン”!!!」

金色の翼を広げ、現れたのは黒い悪魔型サイキック族モンスター――
――デイヴァインの最も信頼する僕^{しもへ}――
私は越えなければならぬ。この壁を、彼を救い出すために。

第12話

咲き乱れる黒薔薇VS復讐のサイキッカー

前編（後書き

一旦、ここできります

第13話

咲き乱れる黒薔薇vs復讐のサイキッカー

後編（前書き

ディヴァイン無双！但し、次回はフルボッコの予定。
後二丁三話でダークシグナー編が終わりそうです。

フィールドのおさらい

アキさんLP 4000

手札三枚フィールド、”イービル・ソーン”×二セットカード二枚

ディヴァインLP3700

手札二枚フィールド、”マックス・テレポーター”、”メンタルス
フィア・デーモン”、”念動増幅装置（マックス・テレポーターに
装備）”セットカード一枚

今日の一言

友人に小説についてタロットで占ってもらったと、悪魔のカードが出
ましたorz（意味についてはwikiさんで）

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

第13話

咲き乱れる黒薔薇vs復讐のサイキッカー

後編

Side I・A

「バトルだよ。”メンタルスフィア・デーモン”、”マックス・テレポーター”で”イービル・ソーン”達を攻撃！」

これは不味い、”イービル・ソーン”のATKは低い。
そんなところに攻撃を喰らったらLPがかなり削られてしまう。

「リバースカードオープン”棘の壁”^{ソーン・ウォール}！自分フィールド上の植物族モンスターが攻撃対象に選択された時、相手フィールド上の表側表示のモンスター全てを破壊する！」

「甘いよ、チェインしてカウンター罠”魔宮の賄賂”を発動。”棘の壁”^{ソーン・ウォール}を無効化する。そして、相手プレイヤーはカードを一枚ドロ―する」

くっ、やられた！ディヴァインが何の対策も無しに攻撃を行う筈がない！

「手札の”ガード・ヘッジ”を墓地に送り、このターンモンスターのATKを半分にして破壊を免れる！さらに、速攻魔法”収縮”で”メンタルスフィア・デーモン”のATKを半分にする。くっあぐっ……」

ガード・ヘッジATK 0 DEF 2100植物族・効果

戦闘ダメージ計算時、このカードを墓地へ送って

発動する。自分フィールド上に存在するモンスターはその
戦闘では破壊されず、ATKはこのターンのエンドフェイズ
時まで半分になる。

イービル・ソーン ATK 100 ↓ 50

メンタルスフィア・デーモン ATK 2700 ↓ 1350

イービル・ソーン ATK 50 VS メンタルスフィア・デーモン
ATK 1350

イービル・ソーン ATK 50 VS マックス・テレポーター ATK
2100

AKI LP 4000 ↓ 650

「メンタルスフィア・デーモン」の効果でLPを回復させてもら
うよ。カードを一枚伏せて、ターンエンド」

DEVAIN LP 3700 ↓ 3800

さっきの攻撃の痛みで少し、意識が途絶えそうになる。
でも、デュエルはまだ終わっていない。

戦況は絶体絶命。このドローに全てがかかっている……！

「私の……ターン………ドロー……！」

っ！？何でこのカードが私のデッキに！！？でも、これなら……

「チューナーモンスター」デブリ・ドラゴン”を召喚。効果により、墓地の”ガード・ヘッジ”を特殊召喚！Lv3の”ガード・ヘッジ”にLv4”デブリ・ドラゴン”をチューニング。冷たい炎が世界の全てを包み込む。漆黒の花よ開け、シンクロ召喚！」

3 + 4 = 7

「咲き乱れよ”ブラックローズ・ドラゴン”！！」

手札には”死者蘇生”、効果でフィールド上のカード全てを破壊してこれを使えば……！

「アキ、残念だけど”ブラックローズ・ドラゴン”には退場してもらおう。リバースカードオープン、”奈落の落とし穴”。ATK 1500以上のモンスターを一体

……

除外する」

………え？

突如、”ブラックローズ・ドラゴン”の真下に大きな穴が出現し、赤黒い手がそのまま”ブラックローズ・ドラゴン”を絡めとり、穴に引きずり込む。

効果を発動する間もなかった。

「ククク……その竜は危険だからねえ………ターンエンドかい、アキ？」

もう、打つ手はなかった。

俯く私にディヴァインは笑みを浮かべて、ターンを始める。

「最期に、私の地縛神を見せてあげるよ。フィールド魔法、”脳開発研究所”を発動。そして、”メンタルスフィア・デーモン”と”マックス・テレポーター”をリリースして現れよ我が神、”地縛神クナイナイン”!!!!」

クナイナイ
地縛神 quinine ATK 3000 DEF 3000

Skill Secret

地縛神が召喚された時に出現する石の心臓は現れず、直接地縛神がワールドに現れた。

見た目は巨大な広葉樹——但し、色は黒く白いラインが所々に走っている。

「クナイナイ
地縛神 quinine」でアキにダイレクトアタック！」

地縛神が根を振り上げて、私に向かって降り下ろす。

その様子をぼんやりと見ながら、私の意識は徐々に薄れていった。

キ
イ
イ
イ
イ
イ
!
!
!
!
!
!

T T T T T T T T

どこかで聞いたことのある音が私に近づく。

そして、

ドガアアアアアアン!!!!!!!!!!

私の意識は完全に消えた。

S i d e c h a n g e ↓ s i d e D

アキを地縛神の攻撃で潰したと思ったその時、紫色の何かが間に割って入り、アキを救い出した。

「貴様………何者だ!？」

「ん？俺は通りすがりのD・ホイラーだよ？………なんて、信じるわけないな」

D・ホイールから降りたのは、フォーチュンカップでアキを倒したデュエリスト——メビウスだった。

あの時とは異なる冷たい目をしていたが………なぜここにいるんだ？
そう考えた時、

ヒューーーーーー ドガアアアアン!!!!!!!!!!

空から、何か巨大な物体が墜ちてくる。

それは、古ぼけた石盤で私達の側で大きなクレーターを作りながら

地面に降り、周りに砂埃を撒き散らした。

「クツクツクツ……良いタイミングだ。ようやく、”私”の本気が出せるな」

石盤に手をかざし、デッキを取り出すメビウスの顔には愉悦の色が濃く写っている。

「さあ、アルカディア・ムーブメントの長よ、イリアステル最後の門番、ゼライト・メビウスが相手をしよう」

せいぜい、愉しませてくれ

第13話

咲き乱れる黒薔薇VS復讐のサイキッカー

後編（後書き）

次回、ゼライトの本当のデッキ（オリカ）始動！

第14話

vs縛られし大樹のシシャ（前書き）

オリカ——機竜シリーズの説明は後書きにて

今日の一言

文化祭終わったー、（ー）ノ、

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

第14話

V S 縛られし大樹のシシャ

S i d e D

イリアステル

世の中を安寧へと導く『星の民』の末裔ともいわれ、政治・経済・軍事などの全ての事柄は彼らに忠誠を誓っている者達によって動かされているといわれる伝説の組織

その実態は不明だ

その伝説の組織の一員であると公言したメビウス……いや、ゼライトはデュエルディスクに先ほど石盤から現れたデッキをセットし、不敵な笑みを浮かべている。

……だが、私の地縛神——”クナイナイquinnine”が負ける筈がない！

「良いだろう。まずは君を倒して（ころして）アキに止めを刺そう」

「出来るのか？貴様ごときに？？」

「デュエル！！」

Z - RIGHT VS DEVA IN

「私の先行だ……ドロー。ククク…幸先が良い……手札からフィールド魔法”開拓されし決戦の地”を発動。私は一ターンに一度、手札から”機竜”と名の付くモンスターを一体特殊召喚することが出来る」

フィールドは紫炎が呑み込まれ、だだっ広い荒野と開発中の都市が共存した地となる。

そして、荒野には『コンドル』、『蜘蛛』、『蜥蜴』、『猿』、『鯨』、『蜂鳥』、『巨人』、『大木』の八種類の地上絵が描かれている。

「かつては『赤き竜』と『地縛神』の決戦が有ったこの地も人々は開拓し、歴史を塗り替えていく。そんな人々が造り出したのがコイツらだ！私は”開拓されし決戦の地”の効果により、”機竜・アストロ”を守備表示で特殊召喚する。さらに、”機竜・ガルシア”を守備表示で召喚してターンエンド」

機竜・アストロ ATK 1100 DEF 1700 機械族・効果

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードがフィールド上に存在する場合、相手プレイヤーが発動したスピードスペルの発動と効果を無効にする。このカードが破壊された時、デッキから このカードのATK以下のDEFを持つ”機竜”と名の付くモンスター 1体を特殊召喚することが出来る。

機竜 - ガルシア ATK 800 DEF 1600 機械族・効果

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードが破壊された時、デッキからLv 4以下の”機竜”と名の付くモンスター 1体を特殊召喚する。

奴の場に頭と胴体、脚が機械化された青い竜——”サファイア・ドラゴン”と同じく機械化された橙と緑色の竜——”アームド・ドラゴンLv 3”が現れ、ギシギシと音を立てながらこちらを睨む。

「カードを一枚伏せて、ターンエンド」

……見たことがないモンスター達だが、ATKはさほど高くは無い。恐れる必要性が感じられないな。

「私のターン、ドロー！……」パンダボーグ”を攻撃表示で召喚する。そして、”機竜 - ガルシア”を攻撃！」

パンダボーグ ATK 1700 DEF 1400 サイキック族・効果

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、800LPを払うことで自分のデッキから Lv 4

のサイキック族モンスター一体を特殊召喚する。

「ふむ、破壊された」機竜-ガルシア”の効果で”機竜-ガルシア
ルス”を守備表示で特殊召喚する」

機竜-ガルシアルスATK 1200 DEF2400 機械族・効果

このカードは通常召喚出来ない。このカードは”機竜-
ガルシア”の効果でのみ特殊召喚することができる。こ
のカードが破壊された時、デッキからLv6以下のモ
ンスター一体を特殊召喚する。

新たに現れたのは機械化された”アームド・ドラゴンLv 5”。
この調子でいくとLv 7やLv 10も存在しそうだね。

「カードを二枚伏せて、ターンエンド」

Z - RIGHT LP 4000

手札二枚、

フィールド、”機竜-アストロ”、”機竜-ガルシアルス”、セッ
トカード一枚、フィールド魔法”開拓されし決戦の地”

DEVAIN LP 4000

手札三枚

フィールド、”パンダボーグ”、セットカード二枚

「私のターン、ドロー。……貴様の地縛神がフィールドに出る手伝いをしてやろう。私は手札から魔法カード”サモン・モンスターズ”を発動する。互いのプレイヤーは手札及び、デッキからLv5以下のモンスター一体を特殊召喚する。私はチューナーモンスター”機竜-ギャザ”を守備表示で特殊召喚する」

機竜-ギャザ ATK 600 DEF 1300 機械族・チューナー

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードがシンクロ素材とされた時、そのシンクロモンスターのATKを500ポイント

アップする。このカードが破壊された時、デッキから Lv2

以下の”機竜と名の付くモンスター”一体を特殊召喚する。

「なら、私は”寡黙なるサイコプリースト”を守備表示で特殊召喚しよう」

今度は機械化された”黒龍の雛”が現れてか細い声で鳴く。

現在の奴のモンスターの合計Lv 9……かなりの高Lvだ。

BGMイリアステルのテーマ(したっぱさんの合体時のやつ)スタート

「”機竜-ガルシアルス”、”機竜-アストロ”をリリースして”

機竜・ユグドラシル”をアドバンス召喚！Lv 8の”機竜・ユグドラシル”にLv2の”機竜・ギャザ”をチューニング。人々よ、見るが良い。自らの罪の形、忘却の咎を！！”

機竜・ユグドラシル ATK 2400 DEF 3600 機械族・効果

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードが戦闘によって破壊された時、墓地から”機竜”と名の付くモンスター一体を召喚条件を無視して特殊召喚する。

機械化された巨大な竜——”タイラント・ドラゴン”が星となり、”機竜・ギャザ”だった緑の輪と重なる。

8 + 2 = 10

「シンクロ召喚！咆哮せよ、”人造機竜エターナル・ファニール”！！！！”

天に赤き竜の紋章——ケツツアルコアトルの紋章が現れ、そこから出た赤い光が地面に照らされる。

やがて、大地を裂き、全身が殆ど錆びて崩れかけた東洋式の”龍”が形容し難い声で咆哮しながら降り立つ。

人造機竜エターナル・ファニール ATK 3000 DEF 4000 機械族・シンクロ

”機竜”と名の付くチューナー一体+チューナー以外の”機竜”と

名の付くモンスター一体

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードは墓地に存在する”機竜”

まとの名の付くモンスター×500ポイントATKをupさせる。このカード

が破壊された時、デッキまたは手札から、”機竜”と名の付くモンスター一体

を特殊召喚する。

「”エターナル・ファフニール”は墓地に存在する”機竜”と名の付くモンスター×500ポイントATKをupさせる。墓地に存在する”機竜”と名の付くモンスターは五体——さらに、”機竜・ギヤザ”の効果でATKを500upする。つまりは”エターナル・ファフニール”のATKは合計3000ポイントupする！」

人造機竜エターナル・ファフニールATK 3000↓6000

つつ！？ATK 6000！？……戦闘破壊は私のデッキでは無理だね。

恐らく、アレがゼライトの切り札だろう。

「ターンエンドだ。さあ、この状況を打破するには貴様の地縛神が必用だぞ？」

言ってくれるね。……………良いだろう、私の神が最強であると証明してやる！

「私のターン、ドロー！……ゼライト、君に神を見せよう。私は”

寡黙なるサイコプリースト”と”パンダボーグ”をリリースして我が神、”地縛神^{クナイナイ}quinnine”をアドバンス召喚する！！！”

クナイナイ
地縛神quinnine ATK 3000 DEF 3000 植物族・
効果

このカードが表側表示で存在する限り、”地縛神”と名の付くモンスターは召

喚、特殊召喚、反転召喚することが出来ない。フィールド上にフィールド魔

法が表側表示で存在しない場合、このカードの以下の効果は無効になり、エンド

フェイズ時に破壊される。

・このカードは相手プレイヤーに直接攻撃することができる。

・相手モンスターはこのカードを攻撃対象にすることが出来ない。

・このカードは相手の魔法・罫カードの効果を受けない。

・一ターンに一度、相手のLPに500ポイントのダメージを与え、自分

はLPを500ポイント回復する。

クナイナイ
”quinnine”の効果発動。一ターンに一度、LPを500
奪う！！”

Z-RIGHT LP4000 ↓3500

DEVAIN LP4000 ↓4500

「そして、”^{クナイナイ}quinnine”でダイレクトアタック！！”

クナイナイ

”quinnine”が振るった根をゼライトは躲すが、衝撃により二三度地面に叩きつけられる。

「腐っても地縛神というわけか………思ったより効くな………」

Z - RIGHT LP 3500 ↓ 500

叩きつけられた衝撃で口内を切ったのか、血を吐き捨てながら奴は嗤う。

「ターンエンドだ。……今なら、サレンダーを考えても良いよ?」

「フン、

……

考えてもだろう?それを受け入れる気はないはずだ。それに……

…何故、勝つデュエルでサレンダーしなくてはいかんだ?」

勝つつもりか!?奴は、この状況を、一ターンで!!!?あり得ないね。

Z - RIGHT LP 500

手札一枚

フィールド、”人造機竜エターナル・ファフニール”、セットカード一枚、フィールド魔法”開拓されし決戦の地”

DEVAIN LP 4500

手札三枚

フィールド、”地縛神^{クナイナイ}quinine”、セットカード二枚

「私のターン。……そろそろ、ファイナレを迎えよう。ドローー！
！！手札から魔法カード発動、”マジックボイラー”！私の場の機械族モンスターのLv÷5枚のカードを破壊する。ディヴァインのセットカード二枚を破壊！そして、バトルフェイズだ。まずは畏発動”竜皇の威圧”。このターンのバトルフェイズ中相手モンスターの効果を無効にする。この効果は”ファフニール”と名の付くカードが存在する場合、

・・・・・

無効に出来ない」

「何！？それでは”quinine”は……」
^{クナイナイ}

「体の良い的だな。”エターナル・ファフニール”でそのデカブツを攻撃。さらに、速攻魔法”リミッター解除”機械族モンスターのATKを二倍にする(ATK 6000↓12000)………さて、ディヴァイン貴様の三度目の死だ。いつか会うその日まで

アーリデヴェルチ(サヨナラだ)

「

地縛神を引き殺し、錆びかけた暴れ竜が私に向かって走る。
そして……

グシャ

私の意識は唐突に――痛みも無く消えた。

第14話

vs縛られし大樹のシシャ（後書き）

機竜シリーズについて

- ・ 闇属性＋機械族＋ドラゴン族
- ・ ATK低くてDEF高い
- ・ シンクロモンスターの最低Lv 8
- ・ 基本的には全モンスター、リクルーターです。

最終話

決断＋次回予告（前書き）

ダークシグナー編終了です。

次回からは少し、オリジナルのストーリーが入ります。

そして、後書きにてお話があります。

今日の一言

ソフトボール、全然ボールがソフトじゃねえー！！？

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

最終話

決断＋次回予告

S i d e Z ・ M

”エターナル・ファフニール”が走り去った後、黒い灰が空に舞った。

ダークシグナーの末路は死体すら残らんものだからな。

デュエルディスクをしまい、倒れこんだままの十六夜アキに私は近づく。

「……死んではいない。痛みと衝撃で気絶しているだけのようだな」

” 気絶しているだけ ”

つまりはチャンスだ。

シグナーがいれば Z O N E の計画に狂いが生じる。

だが、

.....

五人揃っていないければ奴等は無力化できる。

私は虚空から両刃の長槍を取りだし、構える。

そして、

「サヨナラだ、ドラゴン・レッグのシグナー」

心臓めがけて降りおろ

『待ちなさい、ゼライト』

せなかった。

紙一重でZ O N Eからの制止の声が私に届く。

「…………何なのだ、Z O N E?」

『今、シグナーを殺せばサーキットの完成に支障があります』

「つまりは、放置せよと?」

『その通りです』

………… Z O N Eは実の所、結構甘い人間だ。
確かに、支障はあるかもしれないが些細なものだ。
私は、その甘さは嫌いではないが……

「了解した。シグナー達の所へ合流させる」

『ありがとう、ゼライト』

いつか、それが命取りになるぞ？

次回予告（別名、ちよつとだけよ劇場）

「グッモーニン、今日から君たちの副担任になるメビウス先生だ。気軽にメビウスと呼びたまえ」

学舎で彼は何を見るのか？

「ここが旧デュエルアカデミア島——現在は”幻魔島”と呼ばれている」

学舎で彼は何を聞くのか？

「私がこの島で、デュエル・モンスターズについて研究しているデール・ブラッケンと申す者です」

学舎で彼は何を感じるのか？

「メビウス、何故なんだ！？お前はそいつらの仲間か！！？」

「『名答』……私の名はゼライト・メビウス。貴様らの

敵だ

レ

狂乱の幕は開く

最終話

決断＋次回予告（後書き）

ゼライト「久し振りに、ギャグパートに入るな、作者よ」

うん、やっと肩の荷が降りるよ（＾―＾）

ゼライト「フム、っで後書きでの話しとは何だ？」

フッフッフ……それは、コラボの募集をするのだ！（ ）（ ）ノ

ゼライト「……また、アンケートの二の舞にならぬか？」

……なりそうです（ TDTT ）

もし、心優しい作者の方がいらっしやいましたら、お気軽にどうぞ
！！

今回、3MX様の作品、

M・R・P・F } Magic Ride Project

Freedom } 仮面の幻想教師 麻帆良に俺！参上！
とコラボさせていただきました。

3MX様、ありがとうございます！！

今日の一言

デッキ破壊のデッキを憧れる今日、この頃……

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

Side Z・M

飛び交う電撃や炎、氷そして、光の中を俺はD・ホイール——ロンギヌスに乗って走り抜ける。

初めはデッキからカードを出して防ごうとしたが、その時の手札が

”雷鳴”

”雷鳴”

”ファイアーボール”

”火の粉”

”雷鳴”

という『おまつ、ふざけてんのか！？』な物だったのだ。総ダメー
ジが1600つて”連弾の魔術師”がいたら違ってたけどな。

……………要するに、持ってくるデッキを間違えたんだけどね（＾q＾）
そして、俺は何も言わずにデッキをしまい、仮面でみんなと通信し
ようとしているのだ！……………逃げながらな！！

以下、その内容

ブルルルル……ガチャ、

「ZONE、俺だゼライトd」こちらはZONEです。ピーとなつた後にメツセージを残してください」(ピー)……ゼライトです、エライことになってるので助けてください」

ブルルルル……ガチャ、

「ブルー」スイマセーン、今は電話に出ることが出来ないのでメツセージを残してください」(ピー)……ガチャン」

ブルルルル……ガチャ、

「パ」済まないが、今は電話に出ることが出来ん。そして、この私に伝えたいことがあるならば言うが」ガチャン！……偉そうに言うなよ」

ブルルルル……ガチャ、

「A」あつ！ゼライトじゃん、僕に何か用？……ルーちゃん？まさか融合解」ルチアーノ、貴様俺より先に電話に出るな！俺に寄

越せ!!」『あー!!したっぱのくせに、電話取るなよ!』『二人とも止める。お前達にゼライトが電話を行う筈が無い。よって、その電話は私が取る』『渡すか、ホセええええ!!!』『……ガチャン。お前ら構ってちゃんかよ。後、ホセ大人気ねえな……流石、同一人物』

以上、終了

……これは マズイ!!!!

自分のデッキは役に立ちそうになく、通信（電話）も誰も出ねえ……

「……って、ウオ!!!?」

いつの間にやらデカイ鬼みたいな奴に囲まれている。
目の前にいるデカイ鬼（以降デカ鬼）が腕を振るい、俺を弾こうと

する。

D・ホイールを操作して避けるが、真横からドロップキックを仕掛けるデカ鬼その2。

えらくアクティブな動きにギリギリ直撃はしなかったが、バランスを崩しクラッシュする。

『グオオオオオオオ!!!!!!』

そして、デカ鬼その1が足を振り上げ、俺目掛けて降り下ろす。

流石に悪運も尽きたかと思ったその時!!

「タイムン、張らせてもらっせー!!」

白いイカした格好の男がデカ鬼の降り下ろした足を受け止めていた。

えっ、誰ですか貴方？

番外＋交錯編

Zと仮面の乗り手と魔法世界！！

前編（後書き）

ゼライトが間違えて持ってきたデッキは私が昔組んだ通常魔法オンリーバーンです。

3MX様、薫君の口調はこのような感じでしょうか？
かなり不安です…………

後、後書きにゼライトの仮契約カードを載せてみます。

3MX様、迷惑な代物かもしれませんが捧げます。

今日の一言

みんな…………授業中、静かにしてくれー！！！！

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

Side S・K

超鈴音の持っていた”カシオペア”を破壊したのは良いが、その力の余波によって俺は魔法世界——恐らく、大戦時に跳ばされた。しかも、オマケとばかりに仮面ライダーへの変身がフォーゼ以外制限されてしまった。

「はぁ……まあ、変身出来ないよりはましか」

マシンマッシグラのエンジンを噴かせ、俺は呟く。
っと、その時だった。

キイイイイ！！！！！！

ドドドドドドドド……！！

妙なエンジン音を響かせて流星型のバイクが大地を駆けていた。

しかも、自ら鬼神兵に向かっている。

操縦者はどこかで見たことがある仮面をとつかえひつかえしながら何かに意識を集中させているようだ。

って、クラッシュした！？ヤバッ！！？

俺はフォーゼドライバーを腰にセットし、アストロスイッチを四つ装填する。

今回は、ロケット、ランチャー、ドリル、レーダーだ。

そして、ドライバーとアストロスイッチを連結させて、

O
n
e

T
w
o

T
h
r
e
e

エンターレバーを引く！

次の瞬間、俺は頭がロケットを模したようなトンガリを持ち、宇宙飛行士のようなボディースーツを纏った白い仮面ライダー——仮面ライダーフォーゼへと変身を果たした。

「宇宙キターー！」

……うん、宇宙どころか火星に来たがな。

とまあ小芝居は置いて、アストロスイッチを起動させ、ロケットモジュールを発現させる。

その推進力でバイクの操縦者に足を降り下ろそうとした鬼神兵の足元まで飛んで足を受け止めた。

「タイムン、張らせてもらっぜー！」

そのままロケットのエンジンの出力を上げ、そいつを転倒させる。そこから、ランチャーモジュールを動かし、ミサイルを雨みたいに放つ。

一体目はそれで沈黙して、俺はさらにリーダーモジュールの機能でホーミング性能を得たランチャーで二体目、三体目を攻撃する。近づくこともままならず、弱っていく鬼神兵に俺は少し油断してい

たかもしれない。

背後から四体目の、最後の鬼神兵が近寄って鉄拳を空中にいた俺に降り下ろそうとする。

「危ねえ！（今はこれしか……！）魔法カード、”雷鳴”×三！！」

バイクの操縦者の声と共に空から雷が三閃、煌めきながら四体目の鬼神兵を貫く。

あまりの高圧電流にそいつは倒れ伏して燃え始めていた………今、

”魔法カード”って言ってよな？

あれか、遊戯王のあの”魔法カード”なのか？

……後で聞いてみるか。

「一気に決めるぜ、”リミットブレイク”！！」

エンターレバーを再度引き、フォーゼの必殺技を放つ。

『Rocket、ドリル Drill・Limit Break』

ロケットモジュールの急噴射で超加速し、右足のドリルモジュールが回転を始める。

「ライダーロケットドリルキック!!!」

15tにも及ぶ破壊力が鬼神兵達を二枚抜きして大穴を腹に開けた。そして、着地をして一息突くと、

「……………かけえ／＼／」

ん？なんか子供のあの”キラキラ”とした視線が背中に突き刺さるんだが……………？

番外+交錯編

Zと仮面の乗り手と魔法世界！！

中編（後書き）

名称	Z - r i g h t	M o b i u s
称号	L A S T	L O R D O F S A I N T D R A G
ON	（最後の聖竜王）	
色調	P r i s m a（虹）	
徳成	S a p i e n t i a（知恵）	
方位	S e p t e n t r i o（北）	
星辰性	S o l（太陽）	
数字	？ ？ - ？	
アーティファクト	電脳 の 四神器（・h a c kシリーズの	
主人公達の武器（ハセヲは双銃）が出てくる）		
絵柄	二十五本の鎖に繋がれて黒い竜を使役する姿。	

一応、称号以外はゼライトに関係するものです。

色々トラブルが発生したため、投稿が遅れました。申し訳ございません。

今日の一言

正座して立つたらバランスを崩して足捻挫しました……

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

Side？

「忍竹さんはその……何かの機械でバビューンと跳ばされた……
つてわけですかい？」

右腕にデュエルディスクを装着し、色素の薄い赤目をさも面白げに
細めた青年——ゼライト・メビウスが要点を纏めて言い、

「ん、まあそんな感じで。メビウスさんの方は実験に失敗して跳ん
できた……だったか？」

先程までフォーゼに変身して、現在はフォーゼドライバーは腰に巻
いているが変身していない青年——忍竹薫も同じく要点を纏めて言
う。

「メビウスさんじゃなくて、そのままゼライトでもメビウスでも好
きなよーに言いな」

「こっちも呼び捨てで良いぜ」

フフフフフ……

ハハハハハ……

放置していればそのまま手を取り合ってスキップしそうな二人（お

まーら、初対面で仲良いな!?)

どこそのアルプスで山羊を侍らせている少女のテーマソングが流れそうだ。

「とまあ、おふざけはここまでにしてっと……………どうしようかね?」

言葉使いはそのままだが雰囲気の変わったゼライトに薫も同じく空気を換え、話始める。

「ゼライトの方はそのD・トリッパーのエネルギーが補給出来れば元の場所に帰れるんだよね?」

「そそつ、今もチビとつつ補給してるけどまだ無理っぽいわ。確か、計測器がどつかに……………ん?」

懐から、”強制脱出装置”のカードや”盗人の煙玉”のカード、飴ちゃん(イチゴ味)などが出てくる中、通常のデュエル・モンスターズカードより少し大きめのカードが出てくる。

そこに描かれているのは二十五本の鎖に繋がれながらも黒い竜を役する黒髪に金のメッシュが入った男の姿だ。

「それって……………仮契約カード!?何でゼライトが…………?」

「お、俺だって知らぬわ!?つてか仮契約カードってなに『ゼライトおゝ僕だよおゝ』……………か、カードから声が聞こえてる筈がない『無視しないでよおゝ君の精霊でしょゝ』……………お前か!?!?」

間延びした声が二人の間に響き、黒い腰ほどまである長髪に金色の眼の子供(14歳位)がカードから抜け出して来る。

子供はゼライトの腰に抱きついて離れようとせず『久しぶりのゼライト久しぶりのゼライト……くんかくんかああ………（＊ ＊）』とかなりヤバイ状態となっている。

「……ゼライト………お前そういう趣味か………どこの子なんだ？」

そして一人状況についていけない薫は顎に手をやった状態で子供について聞く。

「違うわああああ！！こいつは『ゼライトの保護者ですう』嘘つけー！！こいつは成仏させても憑いてくる俺の背後霊だ！！！！」

半分涙目で叫ぶゼライト、腰に抱きついたままの子供、そんな二人を生暖かい目で見える薫………現場は絶賛混乱している。

『ところでさあゝ何か近づいてきてるよあゝ赤毛の子供含む5人組があゝ』

「は？………（赤毛の子供含む5人組って………赤き翼か！？今会ったのはマズイ！！）くっ、ゼライト！！用事を思い出した！俺はもう行く！！！！」

「えっ！？ちょ、忍竹えええ！！？」

マシンマツシグラーに乗り、逃走を始める薫。

ゼライトは状況が分からずフリーズしている。さらにそこへ現れたのは薫が予想したとおりの集団だった。

「赤き翼参上！ってどうなってんだ？」

.....
続く！

番外+交錯編

Zと仮面の乗り手と魔法世界!!

後編(後書き)

これにて交錯編は終了ですが番外編は続きます!
3MAX様、改めてありがとうございます!!

オリキャラ+オリカ紹介その一（前書き）

そのまんまです。

オリキャラ＋オリカ紹介その一

オリキャラ

サザ・パルナ

容姿 赤髪のポニーテールで目は若干タレ目な緑。服装はユニ。口製っぽい黒のタートルネックに青のジーンズ（チェーンの付いた奴）

性格 普段は結構乱暴な感じで大会とかの大舞台になるとちとはしゃぐ。

職業 何でも屋（依頼を請けれるなら何でもやる）

使用デッキ アンデット族デッキ

備考 酒癖が悪い。D・ホイールの免許は持っていない。何でも屋としての名前は人影。イメージCVは鈴木千尋さん

オリカ紹介

凍てつく炎の秘術 通常魔法

LPを半分し払い、手札を全て墓地に捨てて発動する。自分フィールド上の炎属性モンスター一体と水属性モンスター

一体を選

択し、このターン場のモンスター一体のATKを1000ポイントupし、ダイレクトアタックすることができる。

霜双棘 速攻魔法

自分フィールド上の水属性モンスター一体と手札の水属性モンスター
ー
体をリリースして、相手フィールド上のモンスター一体を墓地に送り、
自分の墓地のモンスター一体を特殊召喚する。

品種改良 通常魔法

自分フィールド上の植物族モンスター一体をエンドフ
エイズ時までチューナー扱いにする。

氷炎魔帝ブリム炎属性Lv 10 ATK 3000 DEF 280
0 戦士族効果

このカードは特殊召喚することができない。このカード
をアドバンス召喚する為には水属性モンスター一体以上と炎
属性モンスター一体以上を含む三体のモンスターをリリー
スしなければならない。このカードのアドバンス召喚に
成功した時、リリースしたモンスターの中で水属性モンス
ー又は炎属性モンスターのどちらが多いかにより効果を

発動する。

● 水属性

このカードがアドバンス召喚に成功した時、フィールド上の魔法・罫カードを全て破壊し、その中の罫カード一枚に付き、500ポイントのダメージを与える。

● 炎属性

このカードがアドバンス召喚に成功した時、相手の手札を全て墓地に送る。

クルエル・サクリファイス 通常魔法

自分フィールド上のモンスター全てを墓地に送り、相手フィールド上のカードを墓地に送った枚数と同じになるように破壊する。

スピードウォリアーズ・ストライク スピードスペル

自分の墓地に存在する”ウォリアー”と名の付くモンスターのLvの合計が自分のSqと等しい場合のみ発動することができる。自分の墓地に存在する”ウォリアー”と名の付くモンスター全てを召喚条件を無視して特殊召喚する。

相反す逆転 永続魔法

一ターンに一度、自分のフィールドまたは墓地に存在するモンスターを一体を選択する。そのモンスターの属性を炎↓水、水↓炎、風↓地、地↓風、光↓闇、闇↓光、神↓炎、水、風、地、光、闇のどれか一つに変える。

氷帝侍女長水属性 L V 2 A T K 1 1 0 0 D E F 1 5 0 0 水族・効果

このカードが墓地に存在しなかつ”氷炎の双竜”
がフィールド上に存在する場合、このデュエル中に一度
だけ除外された”氷帝メビウス”をアドバンス召喚
扱いで特殊召喚することができる。

アサルト・モード 通常罫

自分フィールド上に存在する”ノバスター”と名の付くモンスター
一体とチューナーモンスター一体、それ以外のモンスター一体を墓
地に送り、自分のデッキ
からリリースした”ノバスター”と名の付くモンスターのカード名
が含まれる”Ωアサルト”と名の付くモンスター一体を特殊召喚す
る。

デスカイザー・ドラゴンΩアサルト闇属性 L V 1 2 A T K 4 0
0 0 D E F 3 0 0 0 アンデット族・効果

このカードは通常召喚できない。このカードはアサルト・モー
ドの効果でのみ、特殊召喚することが出来る。このカードはカード
効果では
破壊されない。このカードが特殊召喚に成功した時、相手フィール
ド上のアン

デット族モンスター全てのコントロールを得る。このカードが破壊

された時、墓

地のデスカイザー・ドラゴン/バスターを召喚条件を無視して特殊召喚

することが出来る。

開拓されし決戦の地 フィールド魔法

一ターンの一度、自分の手札から”機竜”と名の付くモンスター一体を特殊召喚する。

Skill Secret

機竜 - アストロ閻属性 L V 3 A T K 1 1 0 0 D E F 1 7 0 0 機械族・効果

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードがフィールド上に存在する場合、相手プレイヤーが発動したスピードスペルの発動と効果を無効にする。このカードが破壊された時、デッキから このカードの A T K 以下の D E F を持つ ”機竜” と名の付くモンスター 一体を特殊召喚することが出来る。

機竜 - ガルシア閻属性 L V 2 A T K 8 0 0 D E F 1 6 0 0 機械族・効果

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードが破壊された時、デッキから L V 4 以下の ”機竜” と名の付くモンスター 一体を特殊召喚する。

機竜 - ガルシアルス閻属性Lv 4 ATK 1200 DEF 240
0 機械族・効果

このカードは通常召喚出来ない。このカードは”機竜 - ガルシア”の効果でのみ特殊召喚することができる。このカードが破壊された時、デッキからLv6以下のモンスター一体を特殊召喚する。

サモン・モンスターズ 通常魔法

互いのプレイヤーはLv5以下のモンスター一体を手札およびデッキから特殊召喚する。

機竜 - ギヤザ閻属性Lv 2 ATK 600 DEF 1300 機械族・チューナー

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードがシンクロ素材とされた時、そのシンクロモンスターのATKを500ポイントアップする。

このカードが破壊された時、デッキからLv2以下の”機竜と名の付くモンスター”一体を特殊召喚する。

機竜 - ユグドラシル閻属性Lv 8 ATK 2400 DEF 360
0 機械族・効果

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードが戦闘によって破壊された時、墓地から”機竜”と名の付くモンスター

一体を召喚条件を無視して特殊召喚する。

人造機竜エターナル・ファフニール闇属性LV 10 ATK 3000 DEF 4000 機械族・シンクロ

”機竜”と名の付くチューナー一体+チューナー以外の”機竜”と名の付くモンスター一体

このカードはドラゴン族としても扱う。このカードは墓地に存在する”機竜”

まとなの付くモンスター×500ポイントATKをupさせる。このカード

が破壊された時、デッキまたは手札から、”機竜”と名の付くモンスター一体

を特殊召喚する。

クニナイ
地縛神 quinnine 闇属性LV 10 ATK 3000 DEF 3000 植物族・効果

このカードが表側表示で存在する限り、”地縛神”と名の付くモンスターは召

喚、特殊召喚、反転召喚することが出来ない。フィールド上にフィールド魔

法が表側表示で存在しない場合、このカードの以下の効果は無効になり、エンド

フェイズ時に破壊される。

・このカードは相手プレイヤーに直接攻撃することができる。

・相手モンスターはこのカードを攻撃対象にすることが出来ない。

・このカードは相手の魔法・罠カードの効果を受けない。

・ターンに一度、相手のLPに500ポイントのダメージを与え、
自分
はLPを500ポイント回復する。

マジックボイラー 通常魔法

自分フィールド上に存在する機械族モンスターのLvの合計÷5枚
のカー
ドをフィールド上から墓地に送る。

竜皇の威圧 通常罫

このターンのバトルフェイズ時のみ発動することができる。
相手フィールド上のモンスターの効果をバトルフェイズ終
了まで無

効にする。この効果は自分フィールド上に”ファフニール”と名の
付くモンスターがいるとき、無効に出来ない。

オリキャラ+オリカ紹介その一（後書き）

実は^{クナイナイ}quinnineは最初ATKが3500だったのですが、LP4000ではワンキルになるので下げました。

デスカイザーの方もあのチート効果+セイヴァーデモンのATK吸収効果が有りました……

そして、スピードスペルのウォリアーズ・ストライクもストラクチャーの方から名前を頂きました（以降、スピードスペルのオリカはこのパターンが多いです）

第0話

今より先のある会話（前書き）

今回、かなり意味不明な話になっています。
メビウスとZONEの会話です。

今日の一言

デストラクトポーションが見付からず、むしゃくしゃしたらバーン
（モドキ）機皇が完成しました。

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

第0話

今より先のある会話

「私はこの行動が正しいのかよく分からないのだ」

『……私達が行動を起こさなければ、破滅の未来を回避できませんよ』

「

・
・
・
・

破滅の未来か……ふと思ったのだが、それを回避したとして

・
・
・
・
・
・

私達はどうなるのだ？」

『それは……どういう意味ですか……？』

「言葉通りの意味だ。私達は破滅の未来を経験したからこそ、歴史の改変をしている。その破滅の未来が無くなったときに私達はどうかっている？歴史の改変によって存在が消滅しているかもしれない……いや、私や君、アポリア、アンチノミー、パラドックスのオリジナルは生きて存在する可能性があるな。だが、コピーは？彼等は君にオリジナルの死後、

・
・
・
・

必要だから生み出された。しかし、破滅の未来が無くなれば彼等は必要とされない。まるで自分で自分の存在を消そうとしているように見えないか？」

『……とどのつまり、何が言いたいのです？彼等を消さないために歴史の改変を止めるとも言いたいのですか？』

「何も。……今は意味の無い言葉の羅列だ。コピーごときに情が移るほど私も甘くは無い。第一、面白くないな」

『つくづく思うのですが、何故貴方は私達に協力するのですか？貴方にも変えたい未来うつつぜがあるのですか？』

「変えたいモノは無い。変えたとしてもどうでもいい事だ。だが、そうだな……強いて言うならば………止めておこう」

『思い出したくない事でしたか………すいません』

「謝らなくて良い。あまりにも自分勝手過ぎるから言えなかっただけだ。私が望むのは」

メヒウスのお
表裏回廊の終わり、

私が望むのは、

アーリア・メビウスが産まれなかった未来だ

第1話

転機へゴースト・ワイズ（前書き）

ここからアニメの第三期、第四期編に突入します。
やっと、イリアステル出せるよー！！

今日の一言

スカレが来たー！！（ウルトラ）……デックスぺースねえorz

訂正・感想がございましたら、お気軽にどうぞ

転機《ゴースト・ワイズ》

Side
H
•
Y

牛尾がゴーストと呼ばれるD・ホイラーに負け、重傷を負った。その報せを聞いた俺とジャック、クロウの三人は各々の愛機、遊星号、ホイールオブフォーチュン、ブラックバードに乗り夜のサーキットに向かっている。

「なあ、遊星。勝算は……あるか？」

「……分からない」

「フン、例えば相手が誰であろうと我が魂レッド・デーモンズ・ドラゴンで叩き潰してくれる！」

「だが、牛尾があればほどの重傷を負ったんだ。気を付けていった方が良く、そうそう♪ ノーデータな相手ほど怖いもんだぜ、皆の衆♪」

T T T T T T T

キ
イ
イ
イ
イ
イ
!
!
!
!
!
!

特徴的なD・ホイールのエンジン音を響かせ、ソイツは後ろから俺達を追い掛ける。

「ヤッホー！大体半年ぶりかしらね？」

「「「メビウス！！？」」」

「おお！名前覚えててくれたんだ！嬉しいねい♪」

フォーチュンカップの準優勝者であるメビウスは以前と変わらず能天気な声で俺達に話しかける。

「デメエ、何しに来たんだ！」

「んつと、なぐんか面白そうな空気がしたから来たんだけどね、そしたら遊星と元キング、後BF使いのニイチャンがいたからついてきちゃった」

「だあれが元キングだ！！第一、俺達は忙しいのだ！さつさとゴーストが現れん内に帰れ！！」

「ほうほう、おたくらの目的はゴースト退治……かな？まあ、固いこと言わないで旅は道連れ、靴擦れ注意！つてな♪」

「………それを言うなら旅は道連れ、世は情けだ。旅は旅でも、足袋たびの方ではない」

……固かった空気が少し解れたような気がした。
そういえば……

「メビウス、一つ聞きたいことがあるが……」

「ん？じゃーんじゃん聞いちゃいなよ」因みに、彼女はいないよん」

「半年くらい前に、サテライトでアキを助けなかったか？」

『知らねえな』

間髪入れずに奴が答えた。

振り返って目を見るが、その雰囲気がいつものおちゃらけた、掴み所の無い雲のような空気が無機質で冷たく拒絶するまるで大理石のような威圧感を纏った感じがする。

「アキは気を失う前にお前のD・ホイールらしきエンジン音を聞いたと言っているが？」

「気絶する前に聞いたんだったら気のせいじゃねえの？それに、似たようなエンジン音のD・ホイールなんてごまんとあるさ。『俺は知らない』」

嘘だ。

俺達はライディングデュエルの世界大会であるWRGPに出場するために努力している。

デュエルの方は勿論、D・ホイールのテクニックや有名どころの車種も研究している。

その中で、メビウスのD・ホイールであるロンギヌスと同じエンジン音、類するモノは存在しなかった。

だが、これ以上聞く前に背後から黒いD・ホイールが二台現れて俺達とメビウスを分断させ、デュエルを仕掛ける。

「おつと？これが噂のゴーストかい？遊星、片方は任せな！」

メビウスはゴーストの一体を引き連れて俺達とは別のコースに入る。

「おい、大丈夫かよ！？」

「貴様はさっさと退け！俺がゴーストの相手をする！！！」

「心配してくれんのか、ジャック・アトラス？大丈夫。俺、強いから」

サムズアップをして加速するメビウスはサーキットの闇に消えていった。

第1話

転機へゴースト・ワイズ（後書き）

次回、VSゴースト！

果たして、シンクロを使わないメビウスにワイゼルは通用するのか

！！（えっ？

キーカードは”氷帝竜メビウス・ドラグーン”！！

第2話

V S 仮初めの S e c o n d D e s p a i r へ 第二の絶望

(前)

今回、したっぱさんが可哀想なことに……若干、キャラ崩壊注意！

今日の一言

非常食が¥30で手に入り、ホクホクな今日この頃

訂正・感想がございましたら、お気軽にどうぞ

第2話

VS仮初めのSecond Despairへ第二の絶望

Side P

俺自身が考えた計画——治安維持局のライディング・ロイドを利用して無作為にライディングデュエルを行い、サーキットを完成させる——その試作機であるゴーストのタイプ1は俺の目論み通りに不動遊星とデュエルを行っているが……

「ええい、何故ゼライトがあの場合にいるんだ!!?」

……………正直に言おう、ヤバいと。

只でさえ、この計画はゼライトにはあまり肯定的に受け取られていないのに、そのゼライトにゴーストをけしかけてしまったのだから

……………

しかも……………

「キヒヒ、あゝあ、ゼライトにゴーストをぶつけちゃって……………後でブラシド締められちゃうね」

「……………若さゆえの過ちというモノだな」

ルチアーノとホセの野郎に見られている!!

ああ……………非常にヤバい……………

「デュエル・モードON、”スピード・ワールド2”強制発動」

「ククク……………ライディングデュエル、アクセラレーション!」

G H O S T V S Z - R I G H T

「私ノ先行、ドロ。」 「ワイズ・コア」ヲ召喚。カードヲ二枚伏セテターンエンド」

ワイズ・コア A T K 0 D E F 0 機械族・効果

このカードはターンに一度だけ、戦闘では破壊されない。このカードがカードの効果によって破壊された時、自分フィールド

ド上に存在するモンスターを全て破壊する。その後、自分の手札、デッキ、墓地から”機皇帝ワイゼル^{アタック}∞（インフィニティ）””ワイゼルト””ワイゼルA””ワイゼルG””ワイゼルC”をそれぞれ一体特殊召喚する。

「ふむ、セットカードは恐らくは”ツイン・ボルテックス”かな？
……私のターン、ドロー！」

G H O S T S q o ↓ 1

Z - R I G H T S q o ↓ 1

「”黄泉ガエル”を召喚する」

「リバーiscardオープン、」ツイン・ボルテックス」！」ワイズ・コア」ト」黄泉ガエル」ヲ破壊スル！ソシテ、」ワイズ・コア」ノ効果発動、来イ」機皇帝ワイゼル^{トップ}∞（インフィニティ）」」ワイゼルト」」ワイゼルA」^{アタック}」ワイゼルG」^{ガード}」ワイゼルC」^{キャリア}」！合体セヨ、」機皇帝ワイゼル」！！！」

機皇帝ワイゼル∞（インフィニティ）ATK 0 DEF 0 機械族・効果

このカードのATK・DEFは、このカード以外の自分フィールド上に存在する「ワイゼル」・「スキエル」・「グランエル」と名のついたモンスターの

ATK分UPする。このカードは相手のカードの効果の対象にならない。一ターン

に一度、相手フィールド上に表側表示で存在するシンクロモンスターを装備カード扱いとしてこのカードに

体のみ装備することができ。このカードのATKは、このカードの効果で装備したモンスターのATK分UPする。」∞（インフィニティ）」と名のついたモンスターは自分フィールド上に一体し

か表側表示で存在できない。

ワイゼル^{トップ}ATK 500 DEF 0 機械族・効果

フィールド上に」∞（インフィニティ）」と名のついたモンスターが表側

表示で存在しない場合、このカードを破壊する。

ワイゼル^{アタック} A A T K 1 2 0 0 D E F 0 機械族・効果

フィールド上に”∞（インフィニティ）”と名のついたモンスターが表側表示で存在しない場合、このカードを破壊する。

ワイゼル^{ガード} G A T K 0 D E F 1 2 0 0 機械族・効果

フィールド上に”∞（インフィニティ）”と名のついたモンスターが表側表示で存在しない場合、このカードを破壊する。自分フィールド上に存在するモンスターが攻撃対象に選択された時、このカードに攻撃対象を変更することができる。

ワイゼル^{キャリア} C A T K 8 0 0 D E F 6 0 0 機械族・効果

フィールド上に”∞（インフィニティ）”と名のついたモンスターが表側表示で存在しない場合、このカードを破壊する。このカードは相手のカードの効果では破壊されない。

俺の切り札である”機皇帝ワイゼル”が早々に出てきたのは嬉しいが、相手がマズイ……

「カードを二枚伏せて、ターンエンドだ」

G H O S T L P 4 0 0 0

S q 1

手札三枚、フィールド”機皇帝ワイゼル”、セットカード一枚

Z - R I G H T L P 4 0 0 0

S q 1

手札三枚、フィールドセットカード二枚

「私ノターン、ドロー。……」機皇帝ワイゼル”デダイレクトアタック！」

G H O S T S q 1 ↓ 2

Z - R I G H T S q 1 ↓ 2

「^{トラップ}畏発動、”和睦の使者”！このターン戦闘ダメージを0にし、戦闘破壊を無効にする」

「甘イ！リバースカードオープン、”ゴースト・コンバート”！自分ノ墓地ニ存在スル機械族モンスター一体ヲ除外シテ、魔法・罫・効果モンスターノ効果ヲ無効ニシテ破壊スル。残念ダッタナア？」

「フツ、そちらはブラフだ。本命はこちらだ！チェーンして、”デ

イメンション・ウォール”発動！このターンの私が受ける戦闘ダメージは全て、相手が受ける！！”

「なっ！？ぐっ……」

G H O S T L P 4 0 0 0 ↓ 1 5 0 0

「……カードヲ一枚伏セターンエンド」

……LPではゼライトが勝っているが、フィールドの状況は不利だ。これは………イけるかもしれん！！

「私のターン、ドロー」

G H O S T S q 2 ↓ 3

Z - R I G H T S q 2 ↓ 3

「“黄泉ガエル”の効果で、“黄泉ガエル”を特殊召喚する。さらに”Sp-エンジェル・バトン”を発動、デッキからカードを二枚引き、一枚捨てる。……”黄泉ガエル”をリリースして、“炎帝テスタロス”をアドバンス召喚！そして、効果により真ん中のカードを捨ててもらおうか？」

「……カードハ”Sp-ハイスピード・クラッシュ”ダ」

「まあ良かったかな？」炎帝テストロス”で”ワイゼルG”^{ガード}を攻撃
！深紅の炎！！^{ロート・フラメ}」

ゼライトが技名（恐らくはドイツ語）を叫ぶと、”テストロス”が
両腕から真つ赤な炎を帯のように振るい、”ワイゼル”の右腕を包
み込もうとする。

「リバースカードオープン、”ワイズG3”！”ワイゼルG”^{ガード}ヲリ
リースシテ手札カラ、”ワイゼルG3（ガードスリー）”ヲ特殊召
喚スル！」

ワイゼルG3（ガードスリー）ATK 0 DEF 2000

フィールド上に”∞（インフィニティ）”と名のついたモンスター
が表側

表示で存在しない場合、このカードを破壊する。自分フィールド上
に存在す

るモンスターが攻撃対象に選択された時、このカードに攻撃
対象を変更することができる。このカードは一ターンに一度だけ
戦闘では破壊されない。

”ワイゼル”の右腕が一旦破壊され、後から緑色のオーラを纏った
より巨大な盾を持つ右腕に換装する。
よくやったぞ、ゴースト！！

「ちつ戦闘中止だ。……カードを一枚伏せてターンエンド」

G H O S T L P 1 5 0 0
S q 3

手札一枚、フィールド”機皇帝ワイゼル”セットカード一枚

Z - R I G H T L P 4 0 0 0

S q 3

手札二枚、フィールド”炎帝テストロス”セットカード一枚

「私ノターン、ドロ」

G H O S T S q 3 ↓ 4

Z - R I G H T S q 3 ↓ 4

「”機皇帝ワイゼル”デ”炎帝テストロス”ヲ攻撃イ!!」

”機皇帝ワイゼル” A T K 2 5 0 0 V S ” 炎帝テストロス” A T
K 2 4 0 0

「っ!!」

Z - R I G H T L P 4 0 0 0 ↓ 3 9 0 0

「サラン、”Sp-ソニック・バスター”ト”Sp-サイレント・バーン”発動!自分フィールド上ノ攻撃表示モンスター一体ノA T

「エンドフェイズ時に罾^{トラップ}発動、”反撃のバリア・リフレクト・フォース-”！このターンに受けたダメージ分、相手LPにダメージを与える！」

「サセヌハ！」ゴースト・コンバート”ノ効果デ”ワイゼ^{ガード}ルG”ヲ除外シテ無効ダ！貴様ニ打ツ手ハ残サレテハイナイイ！！！」

「……………条件は整った、貴様の終わりに導いてやる。ドロ-！！」

BGM イリアステルのテーマスタート

GHOST Sq 4 ↓ 5

Z-RIGHT Sq 4 ↓ 5

「墓地の水属性、”黄泉ガエル”、”青氷の白夜竜”、炎属性、炎帝テスタロス”を除外して”氷炎の双竜”を特殊召喚する！さらに、”Sp-スピード・フュージョン”発動！手札の”氷帝メビウス”とフィールドの”氷炎の双竜”を融合！現れよ永久氷壁を司る者、”氷帝竜メビウス・ドラグーン”！！」

氷帝竜メビウス・ドラグーン ATK 3000 DEF 2500
ドラゴン族・効果

”氷帝メビウス”+”氷炎の双竜”

このカードは水族としても扱う。このカードの融合召喚に成功したとき、互いの除外されているカードの枚数分フィールド、手札のカード選択して墓地に送る。

下半身から青い、むしろ蒼い鱗の尾を生やし、より堅牢な白銀の鎧を纏った”氷帝メビウス”。その背には蒼く丸い宝玉とそこから首を伸ばす四体の竜、”月影竜クイラ”を従えている。

「”氷帝竜メビウス・ドラグーン”の効果、互いの除外されているカードの枚数分フィールド上のカードを選択して墓地に送る！堕ちる、フローズン・ブリープ！！！」

五つの氷塊が”ワイゼル”の両腕、頭そして、セットカード二枚を押し潰し、氷づけにする。

「バトル、”氷帝竜メビウス・ドラグーン”で足だけの”ワイゼル”を攻撃！永遠の氷河！！！！」
エターナル・グレイシアア

無造作に両腕を振り上げ、”メビウス・ドラグーン”がそれを下ろすと、”ワイゼル”は一瞬にして氷に包まれ、粉雪のようにバラバラに砕け散った。

「ソッソソナ……バカナアアアア！！！！??」

”機皇帝ワイゼル” ATK 800VS”氷帝竜メビウス・ドラグーン” ATK 3000

G H O S T L P 1 5 0 0 ↓ 0

爆音に包まれるゴースト。

ゼライトはそれに冷やかな目線を少し投げ掛け、

.....

こちらを見た。

「っ!!!?!」

「」

口の動きだけで伝えたその言葉に俺は直ぐに空間転移を行う。

「あっ、逃げた!!」

逃げもする!

なんせアイツは.....

『後でZ O N Eも含めて”お話”するか？』

なんて言いやがった！

ゼライトだけならまだ良かったがZ O N Eも含めてだと！？

俺の胃に穴を開けるつもりか！！？（ロボットも胃に穴が開くのか？
って、後ろに、後ろにいいいい！！！！

第2話

V S 仮初めの Second Despair 第二の絶望

(後

ゼライト「今日の一押しカードはこれだ」

氷帝竜メビウス・ドラグーン水属性 L V 8 A T K 3 0 0 0 D E
F 2 5 0 0 ドラゴン族・効果

”氷帝メビウス” + ”氷炎の双竜”

このカードは水族としても扱う。このカードの融合召喚に成功したとき、互いの除外されているカードの枚数分フィールド、手札のカード選択して墓地に送る。

ゼライト「フィールドだけではなく、手札も減らせれる強力カード。但し、カードが除外されていなければ只のバニラモンスターになる。……”氷帝竜”が存在するということは対になるモンスターがいるかもしれない」

第3話

（小）悪魔との交渉へティーチャーorバトラー？（前書き

ホセとゼライトのキャラはログアウトしました。

今日の一言

オーディン（ホロ）トール（ウル）を手にいれた希望、チューナーが極星霊しかない絶望、極星がミームルばかり手元にある絶望、機皇デツキがマイナーと言われた絶望

訂正・感想がございましたら、お気軽にどうぞ

第3話

(小) 悪魔との交渉へティーチャーorバトラー？

Side L

なんかプラシドが急に逃げちゃってから十分くらいたったけど(ホセはどっか行っちゃった)……………

「ルーちゃん……………すまん、やり過ぎた」

「ブツブツブツブツ……………」

……………戻って来てからずっとプラシドの奴、体育座りで絶賛絶望中なんだよ。

あーもう、スッゴいやりにくい!!

「ちょっとゼライト、どーしてくれんのさー!」

「H A H A H A H A、まあ……………お前の計画手伝うから許してくれ(*´、*´)」

「……………(キャラぶれてないかな、ゼライト?) だったら良いけど……………僕の計画ではD Aに生徒として入ってシグナーの一人に近づく予定なんだ」

ついでに、デュエルボード渡してサーキットも描かせるつもりさ、キヒヒ♪

「あーっと、それだったら俺は教師かお前の親族としていた方が良いな」

「ま、親族はいない設定で執事が世話役「じゃあ教師として行くか」……………決断、早いね」

「執事なんて性に合わん。丁度良い、プラシドよお前、執事やったらどうだ？（少しは落ち着きが出るかもしれん）」

「ハア！？（復活）何で俺がルチャーノの執事なぞせねばならないんだ！！」（、口）ノ」

「……………（プルルル……………）もしもし、ZONE？この前言ってた究極態の話だけど「是非とも、やらせて頂きます！！m（――）m」……………（ニヤリ）」

うわぁ……………悪い顔。ゼライト、絶対にその顔だったらラスボスとか黒幕とかいけそうだよ。

「フツ、伊達にあんな奴やこんな奴の仲間になったり世話（主に食事や掃除）をしていないからな……………」

「ゼライト……………地の文読まないでよ」

……………先行きが不安だな

第3話

（小）悪魔との交渉へティーチャー or バトラー？（後書き

今週中にもう一度更新したいです。

第4話

邂逅と共闘へアン・エクスパート・ドラグニティ（前書き）

ある意味、伏線を張りまくった一話ですね。

今日の一言

大会にて、マシニクルを出すも、返しにトリシュが飛んできた……
（もちろん負けたさ！）

訂正・感想がございましたら、お気軽にどうぞ

第4話

邂逅と共闘〈アン・エクスパート・ドラグニティ〉

Side Z・M

「はぁ……………」

WRGPが始まるまで暇とはいえ、面倒な事を引き受けたな……………
一応、教員免許はあるので教師としてはやっていける…………… 筈。

「はぁ……………」

っていうか、教師DAで足りていたような…………… うん、大丈夫だ。
デュエル・アカデミア
諦めたらそこで未来崩壊だからな（別にこんなことでは崩壊しない
とは思うが）いざとなれば擦じ込むさ…………… ZONEが。

「はぁ……………」 「陽花に手を出すな!!」 「だったらデメエ
からだぁ!!!!」 『ドゴッ!!!!』……………?」

あー面倒事の予感（思考はゼライトからメビウスにチェンジ）野次
馬魂に火が付くぜ!!

Side change side Z・M↓S・G・H

妹の陽花と一緒に私は久しぶりに買い物に行った帰り道のことだった。

「ヒヒヒ……見つけたぜえ……あんときの生き残りをよお」

「兄者、にいさんしりあいか奴知人？」

「いや、私は見覚えが無いが……人違いでは？」

薄気味悪い笑みを浮かべていた男が胸を掻きむしりながら狂ったような声で叫ぶ。

「見忘れるものかよお！！アルカディア・ムーブメントの精鋭サイ
コデュエリストの逆崎・G・ハクと逆崎・H・ガルデア陽花の顔をよおお
おお！！！！」

「！？お前……アルカディア・ムーブメントの人間か！！？」

「ヒヒヒヒヒ、そうとも。俺はあの場所で研究者として働いていた……あの日、組織が崩壊するまでなあ……俺も運が良い、お前たち兄妹を連れてもう一度！今度は俺が総帥として！アルカディア・ムーブメントを復活させるう！！！」

奴は近くにいた陽花に手を伸ばしかけたが、私が手を払い、

「陽花に手を出すな！！」

と言うと焦点の合わない目で睨み、

「だったらテメエからだあ！！！」

『ドゥッ……』

鳩尾に拳で鋭い一撃を入れる。

衝撃と痛みが走り、胃の内容物を戻しかける。

思わず蹲った私に陽花が駆け寄って泣き始める。

「にいさん兄者！！！」

「ゲッヒヤヒヤヒヤヒヤ！！ざまあねえぜ！！それ、もう一発！」

顔面目掛けて今度は足が飛び込む。

衝撃と痛みに耐えるため思わず目を瞑る。

『ヒュ、バシッ、バキッ！！』

……………？

いつまでたつても蹴りが来ないので目を恐る恐る開けると

黒髪に金のメッシュが入った髪の男の人があの研究者にアップパーカ
ットを決め、ドヤ顔でそいつを睨み、

同じく黒髪の（但し、メッシュは無い）男の人が私たちを守るかの
ように立っていた。

「あなたたちはだれ貴殿方何者？何故、なんでわたしたちをたすけたの我達助力？？」

陽花の茫然とした問いかけに黒髪メッシュは、

「んー？女子供は愛でるモノで壊すモノではないからかな？」

と言い、黒髪の男は、

「気がついたらこうなっていた。私の自己満足みたいなモノだ……」
と自嘲げに笑う。

「っと、何者かって質問には答えてなかったな。俺の名はメビウス。
D・ホイラーなお茶目さんだ。」

黒髪メツシュがウインクをするが、あんまり嬉しくない。

「私も名乗らせてもらおうか、私の名は篠芽響谷^{しのめひびき}リアリストで……
…デュエリストだ」

そう言い放った黒髪の男に私は奇妙な近視感を感じた。

まるで前もこのようなことがあったかのように

第4話

邂逅と共闘へアン・エクスパート・ドラゲニティ（後書き）

……共闘なのに闘ってるところねえ!!?!

第5話

M a c h i n e O f B r u d e r へマシンナイズ& a m n

二丁拳銃を使う少女って、なんかカッコいいです。

今日の一言

ヴェルズ組みたいーい！！（バハムートとウロボロスに惚れた／＼）

訂正・感想がございましたら、お気軽にどうぞ

第5話

Machine Of Bruder(マシナーズ&am

Side S・H・H

………こんにちは、陽花です。

話し言葉と心の声が違う？

……… あれはキャラ作りですね（だってDデュエルAアカデミアのみんな個性的だもん）

「くつぐくつ……… まだだあ………！！！」

って、アイツまだ！

「ヒヤハハハ！！来いいい”カラクリ大將軍無零怒！！！”フレイト

現れたのは両手に大きな刀を持つ鎧武者………

風が吹き、舞った枯れ葉が通り抜けずに

”無零怒フレイトに当たった。

その様子に篠芽さんが驚きの声を洩らす。

「！？モンスターが……… 実体化した……… だと………！！！！？」

「サイコ・デュエリストの力を封じ込めたこのデュエル・ディスクはモンスターを実体化させることが出来るんだよ！！行け、”無零怒フレイト！武者靈撃無零光！！！！”」

フレイト”無零怒の双刀から光の帯が伸びて無数に枝分かれし、近くのメビウスさんに迫る。

「うおおおお！！！！？」危ない、来てくれ”マシナーズ・ディフェ

ンダー”！…………た、助かった（、；）」

兄さんの出した青い分厚い装甲の機械兵——”マシンナース・ディフェンダー”が間一髪攻撃を受け止めてるけどもう持ちそうに無い！

「願、召喚おねがいきて”ガンスリンガー・ガール”——」

二丁拳銃を構え、テンガロンハットを被ったカウガールの少女——

”ガンスリンガー・ガール”、私のフェイバリットカード！

彼女は素早く、無零怒ブレイドの両足の関節を撃ち抜き、体勢を崩させた。

「ナイスだ、陽花！行くよ、チューナーモンスター、”マシンナース・クーラ”召喚。Lv 4の”マシンナース・ディフェンダー”にLv 2の”マシンナース・クーラ”をチューニング——」

「ああわたしもいくぞにいさあ我共兄者！調律獣”バトルホース”召喚、位4（レベルフォー）”ガンスリンガー・ガール”位2（レベルツー）”バトルホース”チューニング同調——」

ガソリントankに足を生やしたような橙色の機械——”マシンナース・クーラ”と”マシンナース・ディフェンダー”が分解し、一つの大きな機械兵へと変わる。

「デュアルブレードセットオン！アクティブスラスタフルチャージ！駆動率120%——」

4 + 2 = 6

「おやいつたい、」

「どこに行こうとしてんのかな？ん？？」

篠芽さんとメビウスさんが回り込み、それはもうイイ笑顔で拳をならしていた。

「「天誅！！！」」

「ヒギヤアアアア！！！！！！」

メビウスさんのアップーに合わせて篠芽さんが正拳突きを鳩尾に叩き込み、最期は（誤字じゃないよ）踵落としを二人同時に喰らわせた。

「これはヒドイ
……………是非道」

「陽花に手を出すからさ」

兄さん、二人みたいなイイ笑顔でサムズアップしないで……

第5話

M a c h i n e O f B r u d e r マシンナーズ&amp;amp;

シスコンじゃないですよ、ただの妹思いです！

番外編

Zの魔法世界探検記／紅き翼との邂逅【VSSino of Magic】

今回、若干ネタバレがあります（小説の）

ところで、ウチの子たちのイメージソング何か良いの有りますかね？
因みに私的には、

ゼライト↓Sound Horizonの『終端の王と異世界の騎士』または『Bad Apple』

篠芽さん↓JAM projectの『未来への咆哮』または三谷朋世さんの『時の階段』

ですね。因みに、篠芽さんプッシュにはある理由があります（内緒）

今日の一言

ぎゃー！T.O.V小説のストック全部消えたー！！？

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

Side Z・M

……？

紅き翼？なんじゃ、その”進化する翼”っぽい名前は？？

けど、忍竹さんが逃走したってことは……ヤバイ連中か！！？

「えっと……どうゆう状況なんだ、これ？」

なんか見た目苦労性な人が生暖かい視線を俺に送る……！！？

「まだくつついてたんかい！！」

『だってあんな子供たちなんか僕らのゼライト補充を邪魔されたくないもん』

……よし、もう諦めたわ（ー、；）

一応、顔を隠すために適当に仮面を懷から出して（四次元ポケットモドキですが何か？）装着！！

「デメエもしかしてその子に手を出してんのか！！」

「……ナギ、確かに見た目犯罪臭がしてますが決めつけはいけませんよ」

「けどアイツの仮面、悪役っぽいじゃん」

えーと、仮面の中のデッキータ確認つと

……パwラwドwツwクwスwのじゃwんw
クツハハア、働かずに元キングみたいな生活をしているからだwザ
マアw w w

……俺、結構カッコいいと思うんだけどなあ（、旦那）センス無いのかな……

「フツ、悪役とは失礼なことを言うなあ少年よ」

喋り方はパラちゃんをイメージ。

これから仮面ごとに話し方を変えてみよっかな」

「だって見た目そうなんだから良いだろ？」

「にしてもヌシとその”モノ”、かなりの魔力を感じるが………何者じゃ？」

見た目子供だが老人口調な人が問う。

『（ゼライト……あの人、見た目と違って魂はかなり年期が入ってるよ）』

「（マジ？あれが最近噂の【しょたじじい】って奴か……）何者か……人に聞く前に自分から明かすのが礼儀ではないかね？まあ、私は興味は無いが……」

嘘です、実は興味津々です！！

だってこういった方がカッコ良くな？

「………その子、面白い中身してますね」

「!?!?君の思い違いでは……?」

如何にも魔法使いな感じの男がニコニコ笑いながら話す。

……こいつは確かに見た目は幼女だが、不本意ながら”私”の最大の切り札だ。本当に不本意ながら（大事なことなので二回言いました）

「フフフ……そうですね………」

ヤバイ、コイツは分かっている……コイツの……オリジン・ダーク”の正体を……!!」

「……まあいい。私はここで失礼させてもらおう」

「ってちょっと待て!!」

つああ”!?!?まだなんかあんのかい?

俺は色々と情報漏洩する前に逃げたいのよ!!!

「俺と勝負しやがれ!!!!」

Why? ちょ、何この子、まさかバトルジャンキーって奴!?

「オイオイナギ、俺も混ぜろよ!!!!」

キャー!!!! 何か今まで喋ってなかった男も嬉しそうにしてる――!!!!?

「俺たちが勝つたらテメエのこと、話してもらっぜ!!!!」

「フッフ、それでしたら私たちも手伝いましょう」

「……………エーナニコレ5対1？」

「どーしよっかなー？」

『（どうする？私使う？？）』

「（うゝむ……………使おっかなゝ）良いだろう。この私、ギルゼットが相手をしよう！-！」

ギルゼット？偽名ですが何か？（Z - r i g h tのアナグラムでG i r z t h）

「行くぜ、雷の暴風！-！」

「神鳴流、斬岩剣！-！」

「千の雷！-！」

「斬艦剣！-！」

ウォー、なんかヤバそうー……………ちゃっちやと行こか！

「人々よ嘆くがいい。救いは無い、希望は無い、あるのは破壊の権化のみ！-！」

俺の言葉に連動して腰に抱きついていたオリジン・ダークが俺の前に立ち、発光する。

「我が心の闇、” 暗黒祖竜神ファフニール・オリジン・ダーク” ！」

咆哮が響く。

天を引き裂き現れるはその身を黒に染めた赤き竜——ファフニール。敵対者の攻撃をその身で受け止め、尚も優雅に舞い降りる。

「な、なんじゃありや——!!?」

「おやおや、思っていたより凄いですねえ」

「ふむ、ちと厄介じゃのう」

「まだ終わりではないのだよ！来たまえ、” Sin 青眼の白龍”、
” Sin 深紅眼の黒龍”、” Sin レインボー・ドラゴン”、
” Sin スターダスト・ドラゴン”……！」

最低ATK 2400のドラゴン集団だ、これなら奴等もびびってr

「コイツならどうだ！百重千重と重なりて 走れよ稲妻 千の雷！
……！」

グオオオオオ！！！！

エエエエ（、D、）エエエー！！？

ちよ、Sinモンスター・レインボー・ドラゴン以外全滅かい！？
しかもレインボー・ドラゴンボロボロだし……あ、なんか矢みたい
なんで昇天なされた。

「オリジン・ダーク、エスケープするぞ！！めちやくちやマズイか
ら！！！！」

「あ！テメ、逃げんな！！」

『アイアイサーッ』

フハハハハ！！三十六計逃げるが勝ち！ってな！！

「逃がしませんよッエイ、」

……！！？な、なんか重力が、ウオオオアアアアアオオオオ！！
！？？

ヒュー、ドカン！！！！

あ、意識が遠退く……………ガクッ（チーン）

第6話

晴れのち暗雲へリユージュナー・ナル（前書き）

現在、オリキャラのデッキが一名決まっております。

どなたかアイデアをお願いいたします！（そのオリキャラは口リです）

一応、ドラグニティ、アンデット、コアキメイル、マシンナーズ、ギャンブル（コイントスメイン）風＋地、以外でお願いします！

今日の一言

母「E・N・D　く売ってたからカード買うといておいたわ」（＊、＊）「」

E・N・D　「おお！ありがとうございます、マイマザーよ」（＊）ゞ」（私の母がカードを買うとかなりの確率でレアが来る。例、妖精竜、黒羽竜、機械竜を四パック適当に買って当てました）

母「これやったっけ？（＊、＊）つバトスピのパック×2」

E・N・D　「……………なんでさ（T・T）」

訂正・感想がございましたら、お気軽にどうぞ

第6話

晴れのち暗雲へリユ―グナー・ナル》

Side S・H

「……………セキュリティに通報をした。十分もすれば来るそうだ」

携帯電話を懐にしまい、私は念のため気絶している暴漢を袖から取り出したロープ（何故持っているかは察してくれ）で縛る。

ありがとうはいまめのめさん メビウスさん
「感謝！、貴篠芽貴メビウス」

「お二人がいなかったら私たち兄妹はコイツに捕まってしまうところでした……本当にありがとうございます、！」

見るからに好青年な男が妹と共に頭を下げる。

……………ふむ、人に感謝されるのは久しぶりで中々感慨深いが、少々腑に落ちんところがあるな。

「イヤイヤあ、まあ頭を上げなお二人さん……………ところで、何で襲われたか理由、分かるか？アレの守備範囲がかなり広いのかも知んねえが」

ふむ、どうやら何か理由が有るようだな。
二人の顔色が見るからに悪い。

「ん？ま、言いたくねえなら良いさ」

「だが、原因を排除しなければまた同じことが起こるぞ？」

「……………分かっていきます」

む？どうやらセキュリティが来たようだな。

新体制になってから仕事が早くなっただのは感心だ。

「そいじゃ、俺は行くわ。もう二度と会わねえかも知んねえが、じやあな〜」

そう言い残して、メビウスはやけに綺麗なランニングスタイルで夜の闇に消えていった…………

ん？ちょっと待て！！まさか、アイツ私にセキュリティへの説明等の面倒ごとを丸投げしたのか！！？

S i d e c h a n g e s i d e S ・ H ↓ I ・ A

↳翌日・D A （デュエル・アカデミア）デュエル・アリーナ内↳

「えー、今日から新しい先生がこのD Aデュエル・アカデミアに来られました」

一時間目の全校集会。いつもは小学部、中学部、高等部で別れているのに今回は本当に全学年がこのデュエル・アリーナ内に集まっている。

正直に言うとかかなり狭いわ、人数に広さが釣り合っていないもの。けど、新しい先生というのはかなり気になる。

「では、どうぞー!!」

アリーナの舞台袖から真っ赤なスーツを着て眼鏡を掛けた黒髪に金のメッシュが入った男が……………え？

「小学部、中学部、高等部で錬金術を担当するメビウスだ！ヨロシクうー!!!」

問

「ええ——！！！！！！！！」

何で、メビウスが先生になってるのよ!?

第6話

晴れのち暗雲へリユ―グナー・ナル》（後書き）

メビウス「眼鏡はもち、伊達さ（「」）b」

第7話

交渉ヘラーフ・デビル（前書き）

最近、寒いですね

今日の一言

DTにてラヴァルチェーンを入手。

近所のカード屋でリリースすることにより、
¥3980をアドバン
ス召還する！！

訂正・感想がございましたらお気軽にどうぞ

第7話

交渉ヘラーフ・デビル

Side LUKA

「グッモーニン、今日から君たちの副担任になるメビウス先生だ。気軽にメビウスと呼びたまえ」

教室の前で腕を組み、自信満々に胸を張りながらメビウスはよく響く声で言う。

「ちょ、なんでお前が先生になってるんだよ!!」

「龍亞君、一応俺、先生だから敬語を使いなさい。それじゃ、敬語でワンモア、プリーズ？」

「うっ………ドウシテセンセイニナッタノデスカ、オシエテクダサイ」

龍亞………かなり棒読みになってるわ（ーー；）

「フッフッフ……それは

内緒さ（＊、＊）」

ズコーーーーー！！

みんなが一斉に滑る。

内緒って、特に理由がなかっただけじゃないの！？

「ま、それは置いてだ。今度、小学部で研修旅行……というか遠足が有るだろ？」

ええっと、確か今年はカイバ・コーポレーションKCに見学に行く筈。

「それがねえ、教頭がねえ、KCに申請するの忘れてて行けなくなつたのよ「違いまーす！！！」お？」

大声と共にハイトマン教頭が勢いよくドアを開けながら教室に入ってくる。

「この私が忘れるわけ無いではありませんーんか！この生徒たちは成績が悪いので、研修旅行に行かせないのですよ！……！」

「だそうだ（ー）」

ええっ！？研修旅行無し！？

「教頭先生！研修旅行無しって酷すぎるじゃん……！」

「そうです、酷いです！」

「おだまりなっさいー！！良いですか！？普通なら退学にするところですが、それをせずに研修旅行無しで済ませる優しさが分からないのですか！？」

唾を跳ばしそうな勢いで喋る教頭先生。

確かに、退学よりはましだけど研修旅行無しは嫌よ！

「おー確かに優しいですねー（棒読み）……っでほんのところで、忘れてたんでしょ？」

「だから違いまーす……！落ちこぼれのためにDデュエル・アカデミアAの予算を使わないだけでーす……！」

……あの人がっいたらどんな人でもからかうことが出来そうだね。
けど、Dデュエル・アカデミアAの予算を出されないのだったら研修旅行を諦めるしかないわ……

「だったら出そうじゃないか！幸い、この前のフォーチュンカップ

で賞金がちょい出たし（遊星搜索任務での報酬もあるし）」

「えっ！？良いの、メビウス？」

「敬語を忘れないようにな、龍亞君」

そんな大金大丈夫かしら……

「ま、出せるのは移動費くらいだから昼食は各自で持ってきてもらうけどな（＊、＊）んで、申請をお願いしてもよろしいですか、教頭？」

ものすごく良い笑顔で教頭先生ににじりよるメビウス。

ハイトマン教頭は渋い顔で頷き、

「カイバ・コーポレーションKCの申請期間は終わっているので、高等部と一緒にありますよ……」

と言いつつ、教室から出ていった……

第7話

交渉ヘラーフ・デビル（後書き）

メビウスが教師になったときに色々ありまして、ハイトマン教頭は彼らを退学にすることが出来なくなりました。

メビウス「イツツァ法の力!!」

第8話

出港へジョイン・フラグメントへ（前書き）

今年、最後の更新です。
最後にちよつとだけ新キャラ登場……

今日の一言

冷やし中華、始めました風ですが……
ピクシブ、始めました。

訂正・感想がございましたら、お気軽にどうぞ

皆さん、良いお年を！！

第8話

出港へジョイン・フラグメント」

Side I・A

先生からの連絡で研修旅行の行き先が小学部と一緒に聞いたと聞いて早二週間、研修旅行当日になったのだけれど……

「ふ、船だと！？嫌だ嫌だ嫌だ！！俺、帰るうううう！！！」

「先生、メビウス先生がエスケープしそうです」

……そして赤いスーツの新任教師メビウスは他の先生に引っ張られ、船に入ってそのまま部屋に押し込まれ「うおおおお！！この程度で俺を確保したと思うな！！！」なかつた。

なんと、窓から身を乗り出してそのまま船着き場に着地しようとして「ウボアアアア！！？」……海に帰ってしまった。

「先生、メビウス先生が海に落ちました」

「あなたは何がしたいのですかー！！？」

「……アキさん、おはよう」

「……龍可、おはよう」

バチャバチャと跳ねる海水。

先生たちの混乱。

メビウスの謎の悲鳴。

そんな中で私と龍可は朝の挨拶を交わして船へと乗り込む。

「そういえば、龍亜はどうしたの？」

「先に乗っちゃって、クラスのみんなとデュエルしていると思います」

「そう……ねえ、今日の自由時間に一緒に回らない？」

こんな感じで出港時間まで雑談をしていた。
因みに外では、

「兄者、行来にいさん いってくるね」

「陽花ー！！気を付けてくれー！！」

「お父さん、お土産期待しててね」

「エミ……あそこらへんはお土産さんはないんだよ……」

「嫌だー！ー！」「くどい！ー！」「グハッ……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9003s/>

遊戯王5Ds-|現在《いま》の誓い

2011年12月31日21時47分発行